

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

事業成果報告書

令和6年3月8日

北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

事業成果報告書

目次

I. 事業の実施期間	p3
II. 事業趣旨	p3
III. 事業の実施体制	p3
1, 本事業の実施体制	p3
2, 本事業の実施スキーム	p4
IV. 事業の内容	p5
1, 事業のテーマ	p5
2, 実行委員会	p5
3, 事業の実施内容	p6
V. 事業の成果	p7
1, 評価指標および目標	p7
2, 結果と考察	p7
VI. 今後の事業展開予定	p54
1, 事業継続や横展開に向けたポイント、課題	p54
2, 次年度以降の事業継続、横展開の計画	p54
参考資料等	p54

I. 事業の実施期間

2023年10月～2024年3月

II. 事業趣旨

本道は、積雪・寒冷、広域分散といった地域特性から、特に家に閉じこもりがちな冬期間に障がいのある方をイベントに連れ出すことが大きな課題となっている。このような状況から、各地域で障がい者が身近にスポーツを楽しめる環境は十分に整っておらず、障がい者スポーツを支え、推進する団体や組織が脆弱であることから、地域の障がい者スポーツの関係者と教育関係者や企業、団体などが協働しながら、積雪寒冷の特性を生かし、「冬の北海道から発信！極寒でパラスポーツを楽しもう！！」をスローガンに掲げ、競技団体の協力を得て考案した「雪中ボッチャ」などが体験できる、屋外スポーツイベントを実施する。

なお、「札幌雪まつり」や「旭川冬まつり」の開催期間に合わせて、道内2カ所で既存イベントと連携することにより、集客の向上、開催経費の抑制を図る。また、障がい者の理解促進や、障がい者と障がいのない人との交流の推進には、身近な「スポーツを楽しめる場」を創出していくことが必要であるため、本事業の実施により、地域の障がい者スポーツの実施体制を構築するとともに、障がい者スポーツへの理解促進を図り、「支援者」を広げ、身近な場所でスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めることを目指す。

今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめ、周知することにより最終的には全道への普及・展開を目指す。

III. 事業の実施体制

1. 本事業の実施体制

事務局

北海道環境生活部スポーツ局 スポーツ振興課 オリンピック・パラリンピック連携室	室 長	猪 股 由 起
	主 幹	遠 藤 健 司
	主 査	吉 澤 秀 信
	主 任	戸 田 雄 也
	コーディネーター	萩 原 圭 太

北海道障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

特定非営利活動法人 手と手	代表理事	浅 野 目 祥 子
北海道障がい者スポーツ指導者協議会	会 長	岡 崎 勇 二
特定非営利活動法人さっされん	事務局長	金 澤 信 治
小樽スキー連盟	副会長	金 谷 活 克
北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科	講師	近 藤 尚 也
旭川パラスポーツ協議会	代表	今 野 征 大
一般社団法人 HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS	代表理事	齊 藤 雄 大
株式会社らむれす 三角山放送局	代表	杉 澤 洋 輝
公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	常務理事兼事務局長	武 田 功
学校法人滋慶学園グループ北海道ハイテクノロジー専門学校	広報政策	中 山 怜
北海道車いすカーリング協会	事務局長	本 間 篤 史
一般社団法人日本ボッチャ協会	事務局長	三 浦 裕 子

オブザーバー

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	主幹	菊 池 幸 次
北海道教育庁学校教育局特別支援教育課	主査	沓 澤 整 治
札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課	係長	松 井 修 一
旭川市観光スポーツ交流部スポーツ課	課長	森 田 直

その他:イベント当日運営スタッフ

2, 本事業の実施スキーム

・主な展開スケジュール

【11月】 実行委員会の組成

【12月】 4 日 第 1 回実行委員会開催

25日 周知開始（チラシ及びポスター）

【1月】 16 日 第 2 回実行委員会開催

22日 報道発表

【2月】 3日 4日 北海道インクルーシブパーク in 道庁赤れんが開催

10日 11日 北海道インクルーシブパーク in 旭川駅前開催

16 日 第3回 実行委員会開催(最終回)(事業報告・まとめ)

【3月】 報告書の完成

10日 事業終了

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実行委員会		実行委員会の組成	実行委員会開催	実行委員会開催	実行委員会開催	
事業の準備	資料等作成	札幌会場及び旭川会場使用調整 チラシ調整		手配及び加入	インクルーシブパークの実施	報告書完成
物品購入・会場準備		ポッチャ、リンク等調整中	会場調整	会場調整、ステージイベント内容決定	会場準備	
情報発信				チラシ及びHPにて周知 1月22日報道発表 (読売で事前記事掲載) コミュニティFM三角山放送局 ISHITYAプラス職員出演		
出店ブース等調整		出展利用に関する調整	出展募集中	出展者決定		

IV. 事業の内容

1, 事業のテーマ

「障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出」

北海道インクルーシブパーク(in 道庁赤れんが、in 旭川駅前)の実施を通して、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめ、周知することにより最終的には全道への普及・展開を目指す。

2, 実行委員会

北海道障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員組成の考え方

本事業の実施内容にかかわる関係者を中心に実行委員を組成した。(体験実施種目関係者、出展ブース関係者、会場説系関係者、冬季イベントの移動支援経験者、パラスポーツ関係者、学識経験者)

委員一覧(再掲)

特定非営利活動法人 手と手	代表理事	浅 野 目 祥 子
北海道障がい者スポーツ指導者協議会	会 長	岡 崎 勇 二
特定非営利活動法人さっされん	事務局長	金 澤 信 治
小樽スキー連盟	副会長	金 谷 活 克
北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科	講師	近 藤 尚 也
旭川パラスポーツ協議会	代表	今 野 征 大
一般社団法人 HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS	代表理事	齊 藤 雄 大
株式会社らむれす 三角山放送局	代表	杉 澤 洋 輝
公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	常務理事兼事務局長	武 田 功
学校法人滋慶学園グループ北海道ハイテクノロジー専門学校	広報政策	中 山 怜
北海道車いすカーリング協会	事務局長	本 間 篤 史
一般社団法人日本ボッチャ協会	事務局長	三 浦 裕 子

3, 事業の実施内容

(1)北海道インクルーシブパーク in 道庁赤れんが(札幌会場)、及び北海道インクルーシブパーク in 旭川駅前(旭川会場)の実施

○開催日時: 札幌会場 北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)前庭(札幌市中央区北 3 条西 6 丁目)

令和 6 年2月3日(土)、4日(日)各日 11:00~16:00

旭川会場 旭川駅北広場(旭川市宮下通 8 丁目)

令和 6 年2月 10 日(土)、11 日(日)各日 10:00~16:00

(ピクルスストーンカーリングは 10:00~14:00)

○内 容: シットスキー、雪中ボッチャ、ピクルスストーンカーリングの体験

出店ブースでの販売やステージイベントの開催(札幌会場のみ)

○参 加 料: 無料

○申込方法: 事前申込不要。会場まで直接お越しください。

○対 象: どなたでもご参加いただけます。

○主 催: 北海道、北海道スポーツみらい会議

○協 力: 札幌市、旭川市、公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

北海道障がい者スポーツ指導者協議会、一般社団法人日本ボッチャ協会

小樽スキー連盟、北海道車いすカーリング協会、旭川パラスポーツ協議会

一般社団法人 HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS、特定非営利活動法人手と手

特定非営利活動法人さっされん、三角山放送局

(2)実行委員会の開催

12月 4日 第 1 回実行委員会開催

1月 16 日 第2回実行委員会開催

2月 16 日 第3回 実行委員会開催

(3)効果検証

調査による検証の実施

実行委員会による検証の実施

(4)情報発信

・イベントに関する広報(チラシ、ポスター、ラジオ、テレビ、フリーペーパー)

・WEBによる実施報告

・アンケート調査結果の公表

・報告書の作成

V. 事業の成果

1, 評価指標および目標

1) 来場者数調査 → 障がい者スポーツの理解促進

(札幌会場延べ 1000 名、旭川会場延べ 600 名を目標)

2) 体験者数調査 → 障がい者スポーツの理解促進

(札幌会場延べ 600 名、旭川会場 400 名を目標)

※2022年度に実施したシットスキー体験(2日間約 200 名体験)から目標を設定した。

3) アンケート調査(来場者・スタッフ)

→ 本事業の有効性と、参加者の障がい者スポーツへの関心等について視覚化を試みる
スタッフの意見を集約し、本事業の留意点を整理する

(回収数各会場・日程で参加者アンケート 100 件を目標とする)

4) 会場内ヒアリング

→ アンケート調査の補足情報を得る

※量的な視点から事業の評価を行う

5) 参与観察法

→ 参与観察からよかった点、改善点を抽出することを目標とする

6) 実行委員会における振り返り

→ 実行委員の視点から、よかった点、改善点を整理することを目標とする

※質的な視点から事業の評価を行う

2, 結果と考察

1) 北海道インクルーシブパークの実施

(1) 気象状況

① 北海道インクルーシブパーク in 道庁赤れんが

2月3日 天候 雪のち晴れ 気温 最高マイナス 1.8 度 最低マイナス 9 度

2月4日 天候 曇りのち晴れ 気温 最高 1.5 度 最低マイナス 5.5 度

② 北海道インクルーシブパーク in 旭川駅前

2月10日 天候 晴れのち曇り 気温 最高 0.1 度 最低 マイナス 8.9 度

2月11日 天候 曇り時々晴れ 気温 最高マイナス 1.5 度 最低マイナス 7.2 度

(2)来場人数について(カウンター実施)

【in道庁赤れんが】

区 分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ビクルストーン カーリング	計	スタンプラリー	
2月3日 (土)	366 (障 51)	136 (障 ー)	502 (障 51)	141 (障 2)	159 (障 20)	160 (障 3)	460 (障 25)	136	93
2月4日 (日)	664 (障 4)	462 (障 ー)	1,126 (障 4)	220 (障 1)	206 (障 4)	273 (障 3)	699 (障 8)	162	111
計	1,030 (障 55)	598 (障 ー)	1,628 (障 55)	361 (障 3)	365 (障 24)	433 (障 6)	1,159 (障 33)	298	204

【in旭川】

区 分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ビクルストーン カーリング	計	スタンプラリー	
2月10日 (土)	324 (障 10)	41 (障 ー)	365 (障 10)	186 (障 10)	143 (障 10)	120 (障 10)	449 (障 30)	114	80
2月11日 (日)	231 (障 3)	32 (障 ー)	263 (障 3)	228 (障 3)	165 (障 3)	179 (障 3)	572 (障 9)	156	107
計	555 (障 13)	73 (障 ー)	628 (障 13)	414 (障 13)	308 (障 13)	299 (障 13)	1,021 (障 39)	270	187

- ・人数は延べ人数
- ・インバウンドは、外見や聞こえた言語から判断
- ・「来場者」の人数は、本部前テント付近を通過し各コーナーに集まった人数をカウント
- ・「パラスポーツ体験」の人数は、実際に体験した人数
- ・()内の障がい者数は内数(障がいの有無については目視やコミュニケーションにて判断)

注:正確に聞き取りを行ったわけではない点に注意。目視とコミュニケーションを基本としているため、体験者はさらにいた可能性がある。

考察

令和5年版障害者白書(2023 内閣府)では、「身体障害者(身体障害児を含む。以下同じ。)436万人、知的障害者(知的障害児を含む。以下同じ。)109万4千人、精神障害者614万8千人」と示され、「単純な合計にはならないものの、国民のおよそ9.2%が何らかの障害を有していることになる」と述べられている。一方で、2022年度末の北海道の人口に占める障がい者の割合について、身体障がいは5.5%、知的障がいは1.3%、精神障がいは3.8%と示されている(2024 北海道)。

本事業において、集計方法について留意が必要であるが、札幌会場では来場者の約3%、旭川会場では約2%ほどの障がいがある人が確認された。また、インバウンドを除いた場合、札幌では、約5%、旭川では、約2%であった。なお、障がいある人で1年間で何らかの運動・スポーツをした人は、障がいがある人の55.3%ほどあることも示されており(2023 株式会社リベルタス・コンサルティング)、そのような観点から、十分とは言えないものの一定程度障がい者の参加があったと考えられる。

(3)各実施内容(参与観察・ヒアリング内容含む)

①ピクルスストーンカーリング

リンクの上で、ピクルスストーン(漬物石)(およそ 2.5kg)を用いたカーリング体験の実施。1 人 3 投程度の体験を行った(会場・参加者の状況に応じて調整)。スイープはスタッフが状況によって実施した。なお、車いすカーリング用のデリバリースティックは札幌では使用しなかった。デリバリースティック、カーリングストーン(20kg)を受付前に展示した。また、ヘルメットも用意し転倒時への対策を行った(特に旭川はスケートリンクに入るため使用が必須である)。

・当日の運営状況

運営スタッフ2~4 名

主な役割・・・受付、説明・ストーン渡し、ストーン回収、降雪時の除雪

・事前準備

札幌会場では、リンクを作るところから実施した。数日前より業者による対応が行われた。気温に左右されるため、今回は氷を張ることができたが、1 週間後には 10 度を超える気温になっていたため、高温時に備えた対応についても準備があると良いと考える。旭川会場では既存のリンクを活用して実施できた。

・考察

多くの来場者が知っている競技でもあり、体験の導入として有効であった。「見たことがある」「知っている」ことで体験のハードルを下げることができると考えられる。また、ピクルスストーンを使うことで投石も大人から子供までスムーズに実施することができていたため、工夫された用具がインクルーシブの場を作るのに有効に機能したと考えられる。加えて、ルールも複雑なものとはせずに実施してきたことで、ルール等の理解が難しい方にとっても楽しく体験できたと考えられる。

一方で、リンク(氷を張る)ことが必要であるため、多様な地域での実施を想定した場合、リンクを使わない方法(樹脂シートの活用など)も含めた実施についても準備をしておく必要があると考えられる。

②雪中ボッチャ

レクリエーションボッチャ形式で、コートは幅 4 メートル×長さ 6 メートルほどとした。雪上にボールを投げるため、体育館等とは異なり、凹凸によりボールの軌道が変わりやすい特徴があった。細かなルールについては重視せず、気軽に楽しめるよう進めた。

・当日の運営状況

運営スタッフ 3~4 名

主な役割・・・受付、説明、審判、降雪時の除雪

・事前準備

コートのラインはスプレーで引くことを検討したが、降雪時の対策を踏まえて、ひもをペグで固定する形を基本とした(ラインを引く場合、除雪の際にラインが消えやすい)。日本ボッチャ協会、用具メーカーとともに防水加工を施したボッチャボールの開発を行った。(当日は 2 セット用意)

・考察

ボッチャを目にする機会も増えてきており、なんとなく知っていたり、学校の授業などで体験したことがあるものも散見された。レクリエーションルールで実施することで、わかりやすく、様々な方が参加することができた。また、雪上の特徴としてボールの転がり方が凹凸によって変わること、ボッチャ体験経験者にとっても新たな体験となり、雪上で行う形の楽しさを感じており、冬季の北海道におけるあらたな屋外レクリエーションス

ポーツとしての有効性がうかがえた。

③シットスキー

体験者はシットスキーに座り、ストックを使用して自分の力で前進する体験を行った。また、スタッフがシットスキーの後ろにつき、前進の補助、転倒に備えたサポートを添えて実施した。

・当日の運営状況

運営スタッフ 4～8 名

主な役割・・・受付、乗降サポート、移動補助(1 台進行につき 1 名の配置が必要)

・事前準備

前日に圧雪とコースカッターを実施した。

・考察

市街地での実施ができたことは、「スキー＝郊外」のイメージを変化させ、スキーを気軽に体験できる場を提供するものとなった。また、スキーウェア等を特段用意しなくても体験でき、気軽な体験（参加者はスポーツ用の服装を前提としていないことが多い）も提供できていたと考えられる。スキーを経験したことのない観光者にとっても座位でスキーを体験できることで、体験のハードルも下げることができたと考えられる。

一方で、降雪時にシットスキーの座面が濡れてしまいますといったことがあったため、雪の対策は必要である。また、一定のスピードを伴う可能性がある体験種目であり、転倒や衝突のリスクが懸念される。対応スタッフについて、安全管理を十分に理解してもらい実施することが重要であると考えられる。用具の取り扱いについても理解が求められるため、事前の講習を行うなど、工夫が必要であると考えられる。

④出展ブース(札幌会場のみ)

特定非営利活動法人さっされんの協力により、札幌市市内の就労支援事業所を中心に飲食・販売の出店を行った。その他、競技の展示ブースとして、デフリンピック、モルックなど、また、協賛としてコカ・コーラの展示も設置した。

・当日の運営状況

運営スタッフ 1～3名配置

主な役割・・・スタンプラリーの引き換え対応、アンケート調査の依頼

各出展スタッフ(各2～5名程度)

資材の搬入など当日に実施した。

・事前準備

前日にテントの設営、暖房機器の設置などを行った(給油については当日実施)。

・考察

福祉事業所による出展を行うことで、就労の機会を広げるとともに出展者も空き時間等にて体験することができ、障がいがある人のスポーツ体験のきっかけ作りにもなった。

出展について、屋外であること、観光客の多い出店場所であったこと、外国人が多かったことなど、通常の出展とは違う環境での出展機会となった。

競技展示ブースについて、会場奥側となっていたことなどもあり、スタンプラリーやアンケートを実施しない人の見学は多くなかった。

⑤ステージイベント

・じゃんけん大会

協賛品を提供するじゃんけんイベントを実施した。

・チャレンジドチア北海道演舞(札幌会場のみ)

障害がある人ない人が一緒に行うチアリーディングを実施した。

・考察

多くの参加者が集まり、盛り上がりを見せていた。ステージイベントからスポーツ体験を行うという流れよりも、スポーツ体験している人がイベントに参加するといった形が多かったように思われる。イベントをうまく活用し、体験機会につなげていく方法も検討が必要であると考えられる。

⑥暖房室(札幌会場のみ)

冬季の開催であり、障がいがある人を想定した際には、体温調整が難しい人もいることを想定し、休憩しながら暖まれる場所を設置した。飲食を利用した参加者や、スタッフなど多様な人が利用していた。

・考察

利用者が極端に多かったわけではないが、設置することにより、また、市街地の場合は、様々な施設が近隣に存在しており、体験者はそちらを利用して暖まることが多かったのではないかと考えられる。様々な地域で実施する場合は、そうした施設がない場合も想定されるため、暖をとれる場所を設置できると良いと考えられる。

⑦その他

・会場には MC を用意して、様々な説明などを行いイベント会場を盛り上げた。

(4)安全管理

・救護員の配置を行った。救急用品の設置を行った。

・施設賠償責任保険(レクリエーション賠償責任保険)(主催者・参加者)をかけ、万が一のけが等のリスクに備えた。

・ヘルメットなどを用意して、怪我への対策を行った。

・暖房室(札幌のみ)を用意することで、寒さによる体調不良等への対策を行った。

(5)その他

・広報について

教育(特別支援学校を通した周知)行政機関における発信(上川振興局のプレスリリース)、テレビ取材、新聞取材、ラジオ広報、地方情報誌(旭川)での発信、他イベントとの連携(旭川冬まつり)

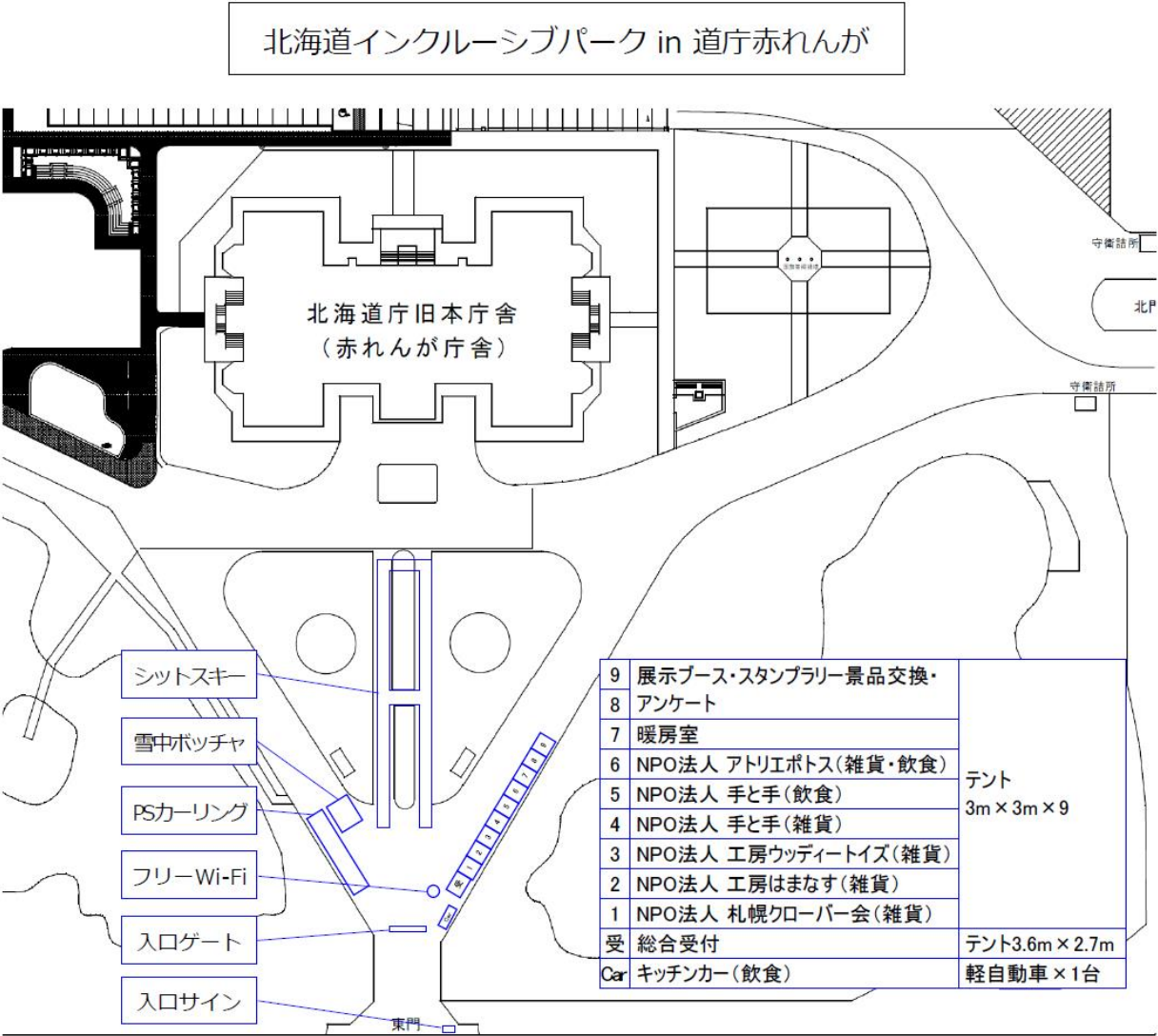
・企業との連携

石屋製菓(協賛品)、コカ・コーラ(協賛品)、KDDI(フリーWi-Fiの設置)、コンサドーレ(協賛品)

・メディアへの露出

1月26日・2月4日読売新聞朝刊、2月4日北海道新聞朝刊(札幌圏)2月21日(道北圏)、2月5日毎日新聞朝刊

(6)当日の会場について



シットスキー 片道45m×往復(中間18m×往復)
雪中ボッチャ 4m×5m
ピクルスストーンカーリング 3m×15m

入口ゲート W6000×H3000
入口サイン W868×H590

Scale 1/1000 (A4)



北海道インクルーシブパークin旭川



日時：令和6年2月10日、11日
10:00~16:00

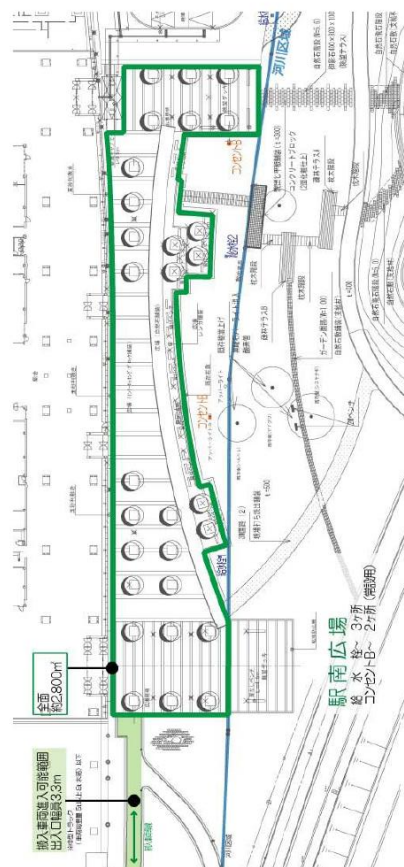
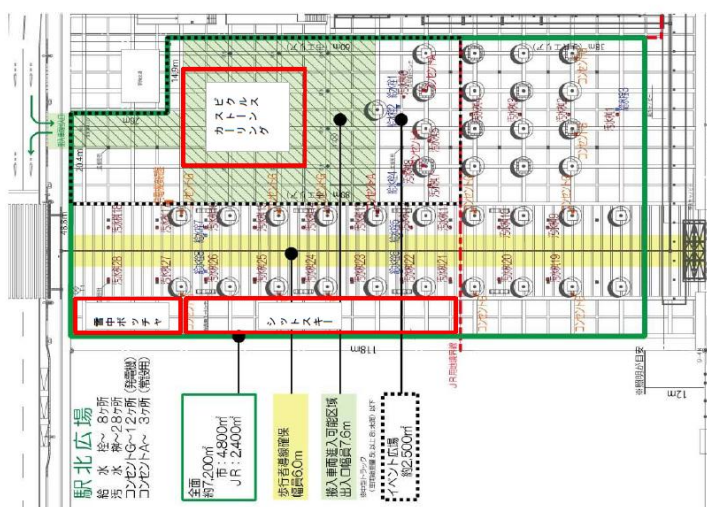
場所：旭川駅前

- ・シットスキー体験
- ・ピクルストーンカーリング体験
- ・雪中ボッチャ体験

会場イメージ

1. イベント広場・使用範囲を線で囲む
- 駅北エリア (1265)㎡
 - 駅北URエリア ()㎡
 - 駅南エリア ()㎡
 - ※スケールアップで算出
2. イベント用設備・使用箇所を線で囲む
- | | a | b | c |
|---------|-------|-------|-------|
| 口給水栓 | ()ヶ所 | ()ヶ所 | ()ヶ所 |
| 口汚水栓 | ()ヶ所 | ()ヶ所 | ()ヶ所 |
| 口コンセントA | ()ヶ所 | ()ヶ所 | ()ヶ所 |
| 口コンセントB | ()ヶ所 | ()ヶ所 | ()ヶ所 |
| 口コンセントG | ()ヶ所 | ()ヶ所 | ()ヶ所 |

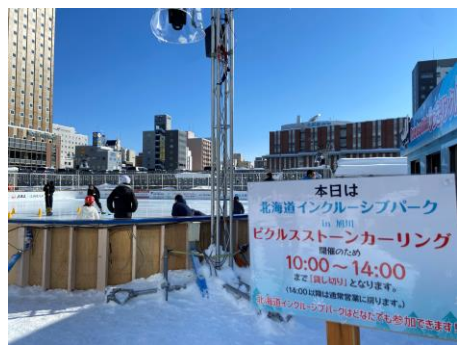
(駅前広場平面図) 1/100



当日の会場の様子について 札幌



当日の会場の様子について 旭川



2)実行委員会

(1)委員会の開催

・12月4日第1回実行委員会開催

概要 委員紹介

プロジェクト実施概要案の説明

実施内容についての意見交換・アイデア出しの実施(スタンプラリー案)

・1月16日第2回実行委員会開催

概要 準備の進捗確認

出展ブースについて

ステージイベント。会場は一について

旭川会場について

運営マニュアルの確認

・2月16日第3回 実行委員会開催(最終回)(事業報告・まとめ)

概要 実施内容の振り返り・意見交換

アンケート結果報告(道庁赤れんが)

(2)実行委員会による振り返り(質的な評価・検証)

ピクルスストーンカーリングについて

- ・旭川は既存のゆっきリンクを借用でき、会場設営に大きな負担がなくカーリングが実施出来た。一方札幌は数日前よりリンクづくりを行う必要があった。会場づくりにかかる手間は大きかった。また、氷を張るため、天候によるリスクもある(暖かい日にぶつくと実施が難しい可能性がある)

雪中ボッチャについて

- ・実施場所がやや奥まっていたが、多くの方に体験してもらうことができていた。雪上での実施は新たな試みであったが好評でよかった。

シットスキーについて

- ・観光客向けに英語の表記や説明ができる体制が必要であった。
- ・転倒やスピードが出るため他者とぶつかるリスクもあるため、安全管理については十分に行う必要がある

出展について(札幌会場)

- ・冬の外のイベントは初めて、テントでは販売がやりづらい→プレハブだとより展開できるのでは？との意見あり。一方で予算の都合がある。
- ・雪が降ったときにどうするか、対策をより明確に検討しておく必要性
- ・福祉販売は売り上げは低かったが、スタンプラリー参加賞を調達した点によりカバーできた(障害者就労の名として、出展者が十分な売り上げを得られる体制づくりとなった)
- ・販売については、売り上げは伸びなかったが、2日目は良かった。
- ・冬季の屋外出店の経験がなく十分なノウハウの蓄積が必要である。海外観光客の来場も多く、それらに対応できる体制準備も必要である。
- ・スタンプラリーの景品を参加事業所より調達することで、就労支援としての売り上げにもつながる連携をとることができる

- ・福祉事業所がイベントに参加することで、障がいがあるスタッフのパラスポーツの体験や知るきっかけにもつなげることができる

ステージイベントについて

- ・本事業が初めてのこともあり、予算や内容調整の課題があった。実際にやってみるともう少しステージイベントがあってもよかった。ステージイベントがあることで、来場者につながるきっかけにもなっていた。
- ・旭川・札幌でじゃんけん大会は盛り上がっていた → ステージイベントのあり方をさらに工夫していく(単独の場と、他イベントとのコラボ会場での体制も整理をすることがポイントとなる)

会場について

- ・どこで何をやっているのかわからない構成であった、もう少し何をやっているかわかるようにできると良かった。案内看板やのぼりなどあればよかった。
- ・冬の野外イベントのハードルが高い→物品を取り扱う業者があまりやりたがらない、借りるものにも制限があった。
- ・やってわかった課題がみえた制限の中で進めた会場づくり、足を運んでもらう見せかた(ゲートの装飾)、内容のわかりやすさ必要
- ・テントに積もった雪が解けた際の排水方法の工夫が必要

来場の促進

- ・呼び込みや装飾についてイベントをわかりやすく見せることは重要
- ・スタッフがわかりやすくなるよう目印の準備
- ・障がいがある方の参加促進を考える点→ どのようにしていく必要があるのか、PRの方法についてどうするか
- ・冬の北海道で車いすユーザーなどが、出てあることは難しいが、イベントにしやすい何かを考えていく必要性がある。関わったことがない人を誘うきっかけ作り、障害者の参加促進についてどのように進めていくのかさらなる検討が必要。障害者の参加が次回からの課題としてその特性などについても配慮しながらイベントを検討していく必要がある。
- ・学校等との連携から子どもの数を増やしていく。

人員についての課題

- ・当日の運営スタッフなど、人員配置数が少し少ないときがあった。冬季であるため、カバーリングの人員など、通常より人が必要。

全体

- ・けが人が出ない点が重要である。体調不良なかった点よかった(札幌)。旭川は1名点等あったが大事には至らなかった。
- ・スタッフが楽しめることも重要 → スタッフが楽しむことで、参加者も楽しむことができる。
- ・雪国のとしての特性を生かしたイベントの継続
- ・札幌や旭川はそれなりに人が集まる場所での実施であったが、遠くについては(地方)はどうか。そのような地域にも広がっていくことが必要であり、それらが普段の中(日常生活)につながるとよい。
- ・初回の取り組みとしては良かった。反省点の蓄積による改善を踏まえて目的をどう果たしていくか検討が必

要

その他

・教育の視点から、は学習指導要領ともリンクするのでは→ 連携を進めるにあたり、各領域と共通する意義を明確に示せることも重要ではないか？

3)アンケート調査結果(量的な評価・検証)

(1)来場者アンケート調査

実施方法
質問用紙、および QR コードによるフォーム入力进行可能とした。協力者には粗品を提供することとし、アンケート実施場所近くを訪れた来場者に声かけを行って参加を促した(スタンプラリー参加者等)。有効アンケート回答数、札幌会場204名(n=204)、旭川会場185名(n=185)であった。

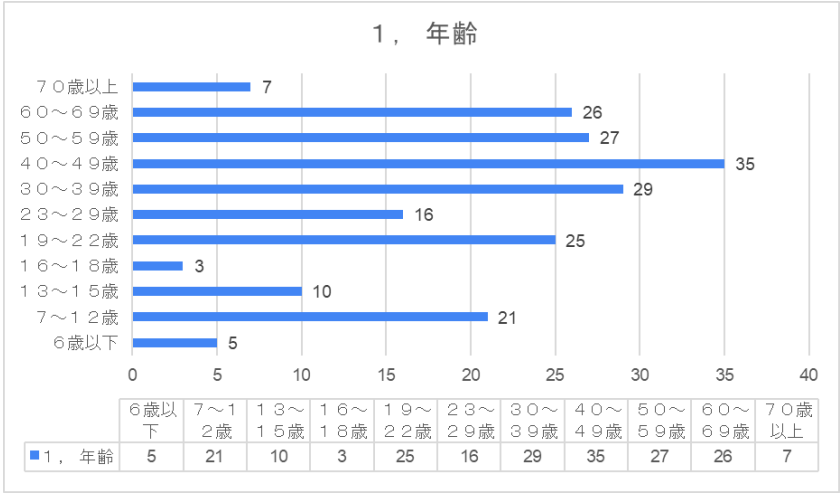
① 単純集計結果

※ 表記について、単回答項目は(SA)、複数回答項目は(MA)と記載する。

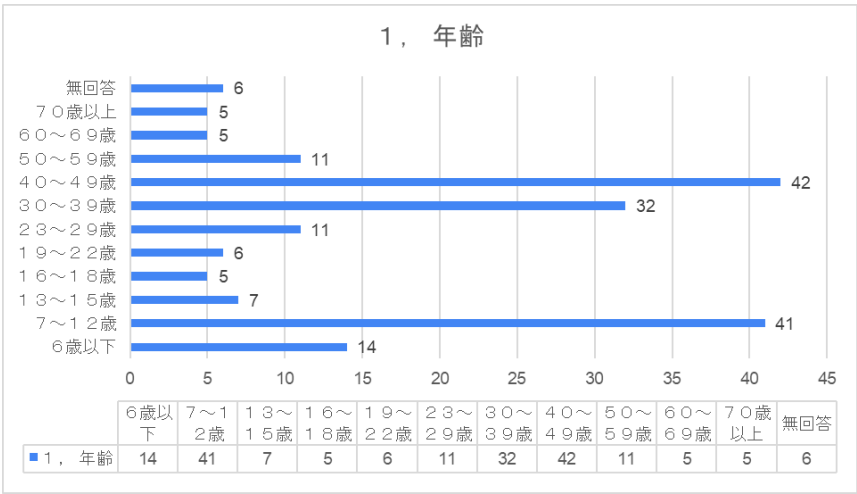
単位はすべて「名」とする

1, 年齢(SA)

札幌は、回答者は「40～49 歳」が 35 名と最も多くなっていた。次いで 30～39 歳「29 名」、50～59 歳「27 名」、60～69 歳「26 名」と続いていた。一方で旭川は「40～49 歳」「30～39 歳」が多く、また「7～12 歳」も多くなっており、親子での参加が多かったかもしれない。開催地域や時期によって回答者の傾向に違いがみられた。



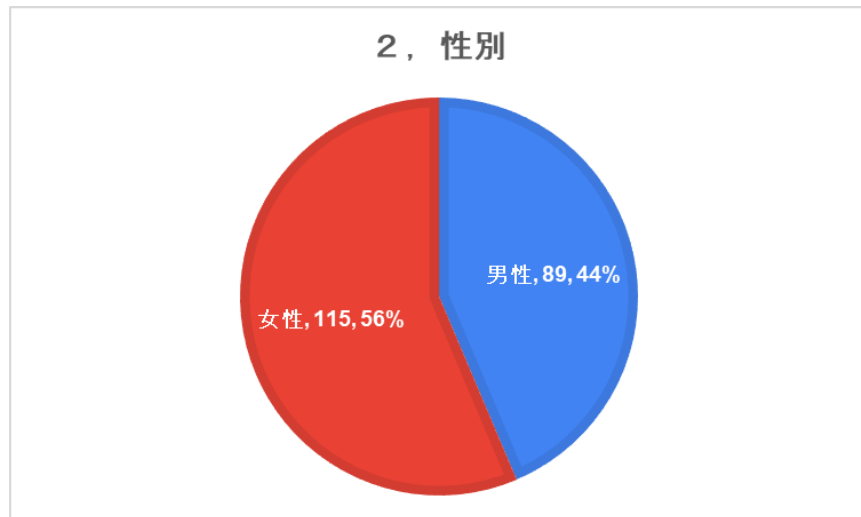
札幌会場



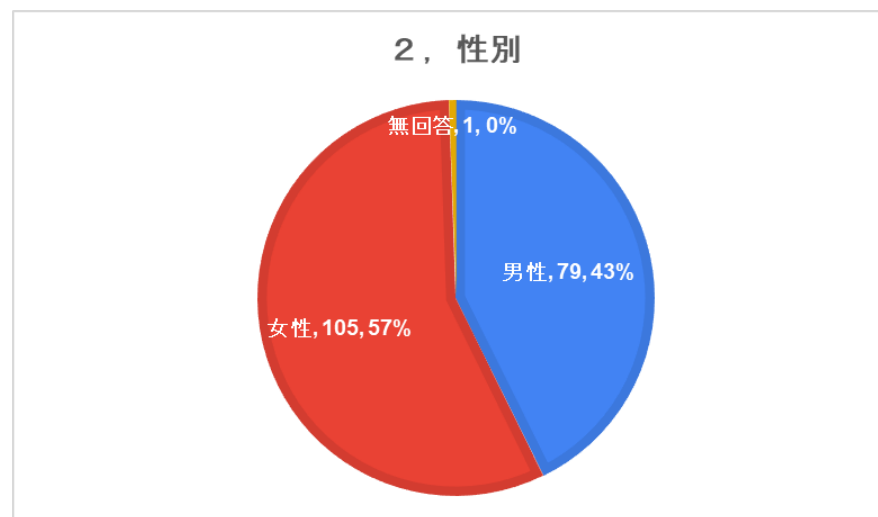
旭川会場

2, 性別(SA)

札幌は女性の割合が 56%と男性(44%)に比べやや高くなっていた。旭川も同様の傾向であった。



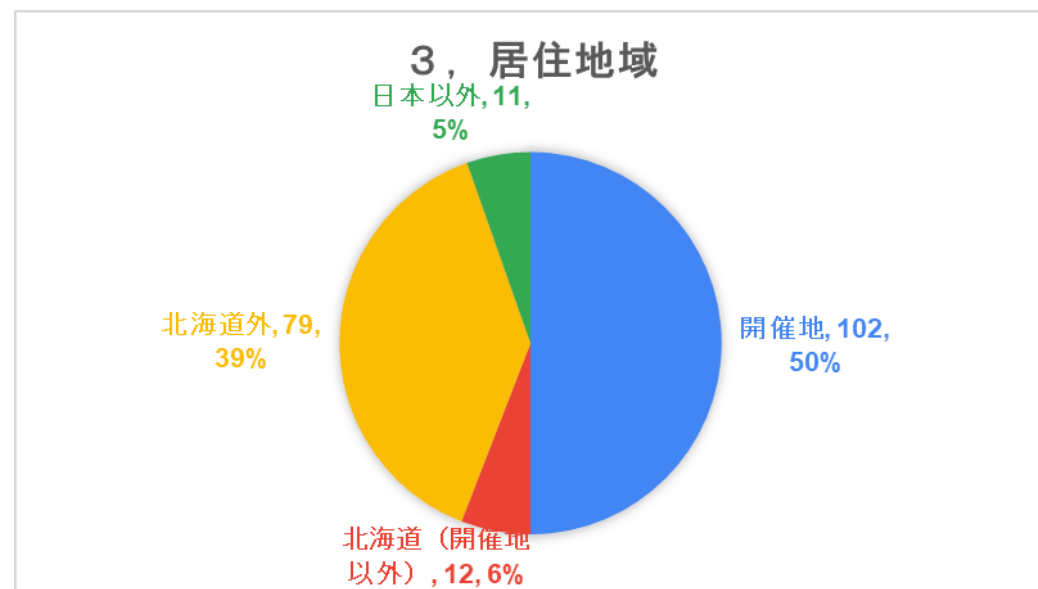
札幌会場



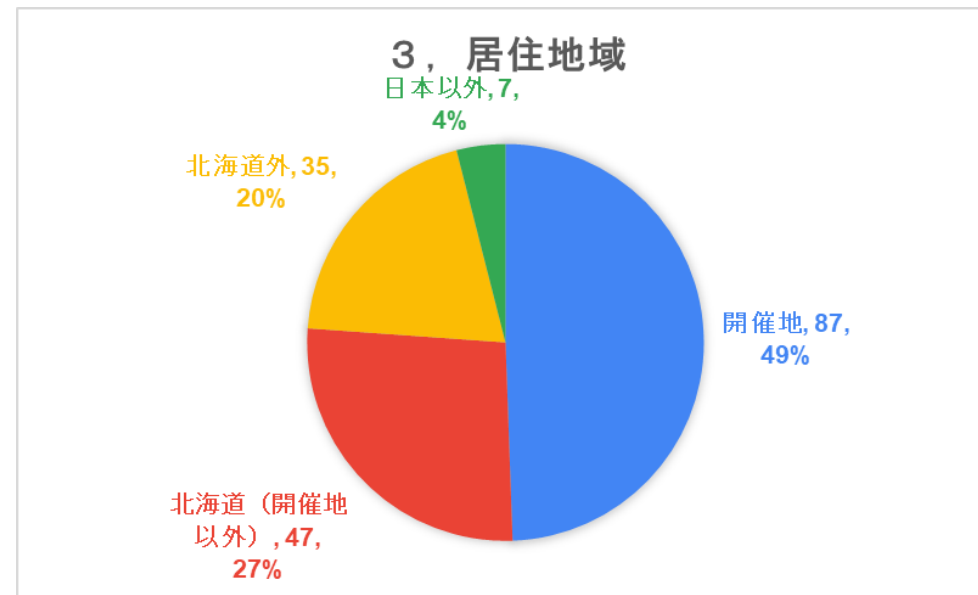
旭川会場

3, 居住地域(SA)

札幌は、「開催地(札幌)」在住者が102名と半分を占めていた・次いで「北海道外」79名(39%)、「北海道(開催地以外)」12名(6%)、「日本以外」11名(5%)となっていた。旭川も「開催地(旭川)」在住者が87名と半分を占めていたが、「北海道(開催地以外)」が47名(27%)と次いで高くなっていた。観光場所である道庁赤れんが前と特徴が違っていた。どのような地域の人に向けた活動とするかによって、開催場所を使い分ける必要があるかもしれない。



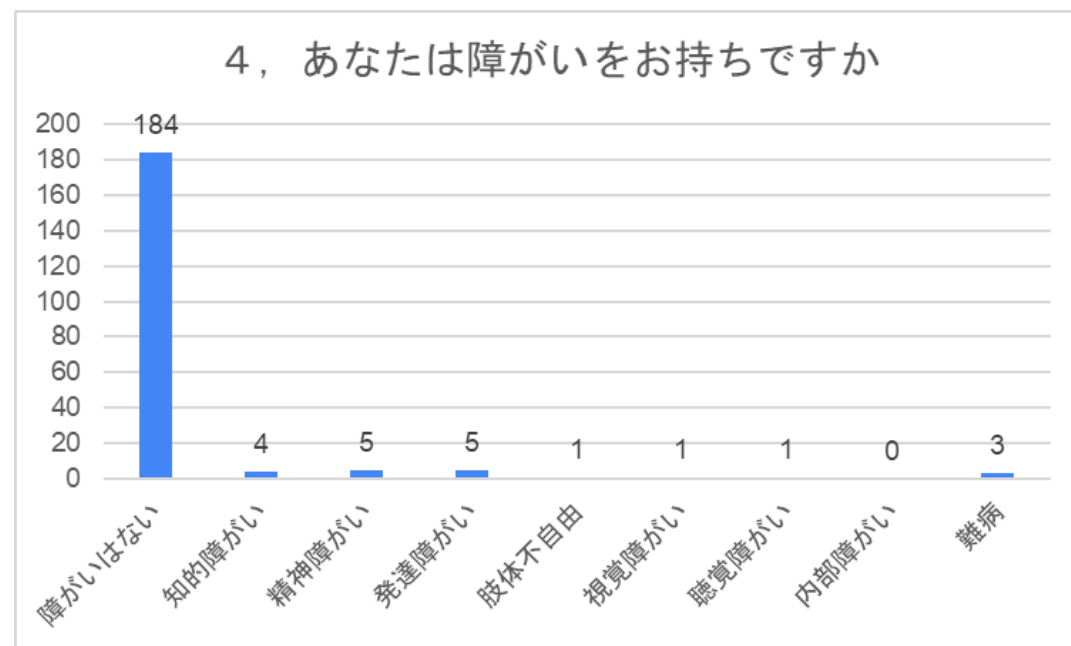
札幌会場



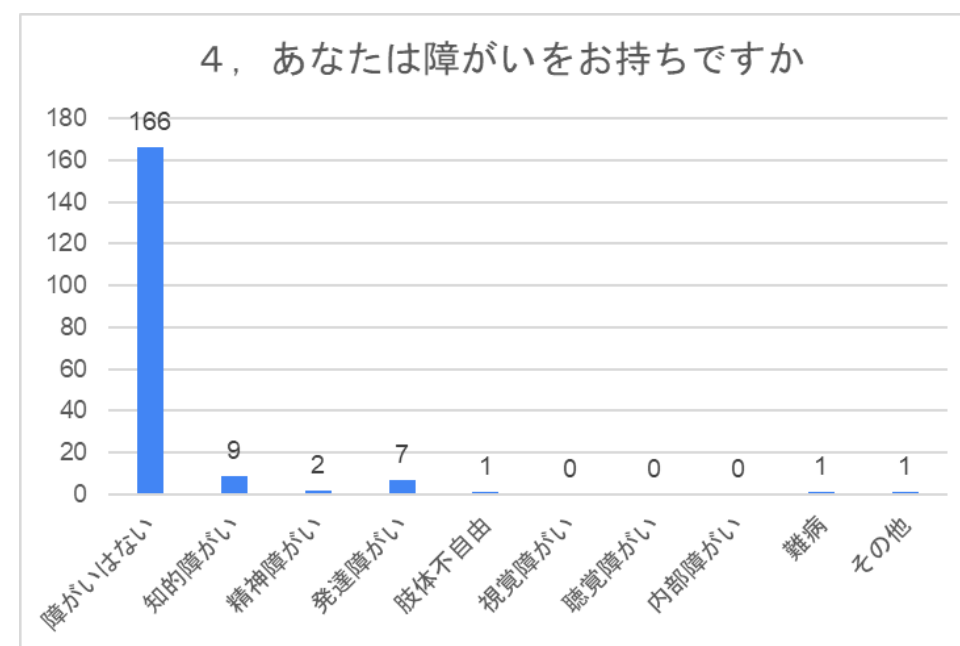
旭川会場

4, あなたは障がいをお持ちですか(MA)

札幌ではアンケート回答者の多くは「障がいはない」もの(184 名)であった。障がいがある人の回答は、精神障がい(5 名)、発達障がい(5 名)、知的障がい(4 名)、難病(3 名)、身体障がい(肢体不自由、視覚障がい、聴覚障害)(3 名)となっていた。旭川では、札幌同様に「障がいはない」割合が最も高くなっていたが、知的障がいや発達障がいがある方の参加が障がいの中では高い割合となっていた。



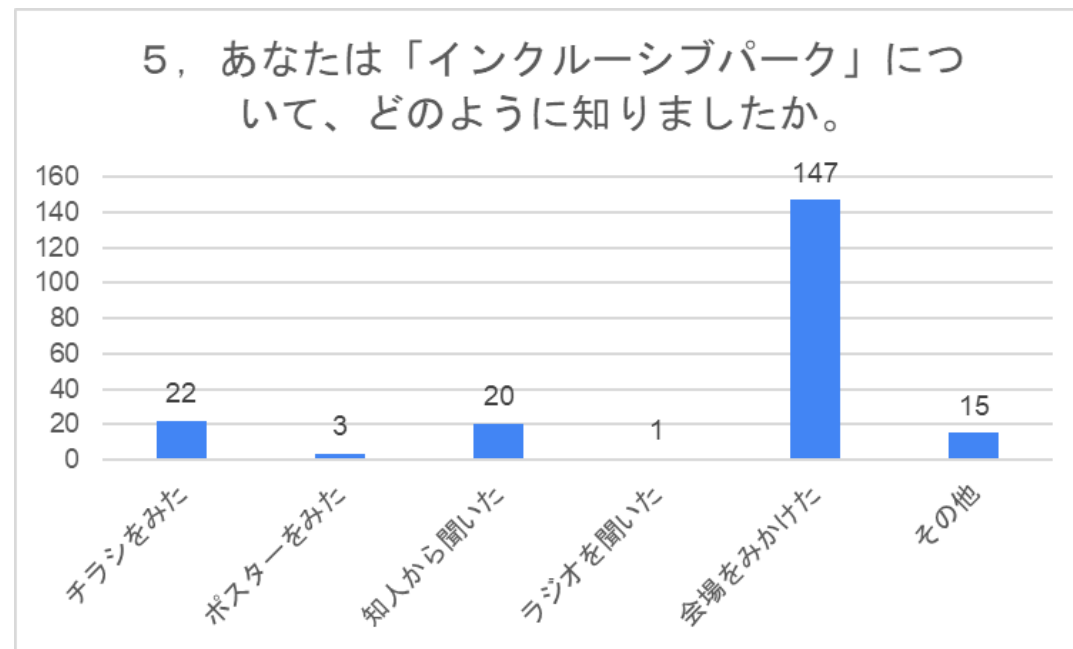
札幌会場



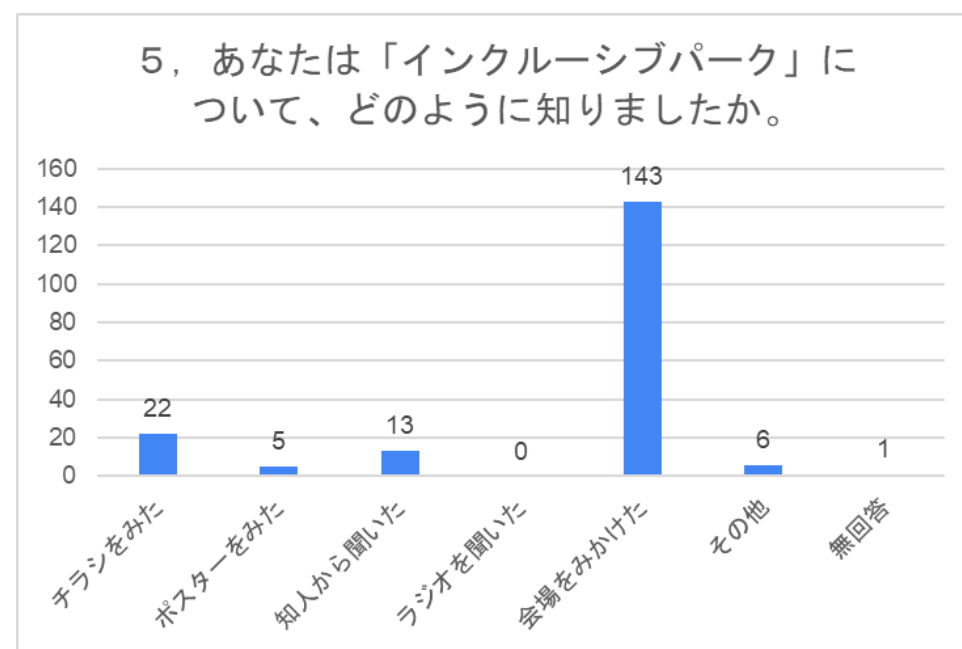
旭川会場

5, あなたは「インクルーシブパーク」について、どのように知りましたか。(MA)

札幌は、参加者の多くはたまたま近くに来ていた「会場をみかけた」ものが多くなっていた(147名)。次いで「チラシをみた」(22名)、「知人から聞いた」(20名)と続いていた。その他の回答の中では、「新聞」(3名)、「テレビ」(1名)といった回答が見られた。旭川も「会場をみかけた」ものが143名と最も多く、次いで「チラシを見た」22名、「知人から聞いた」13名と続いていた。



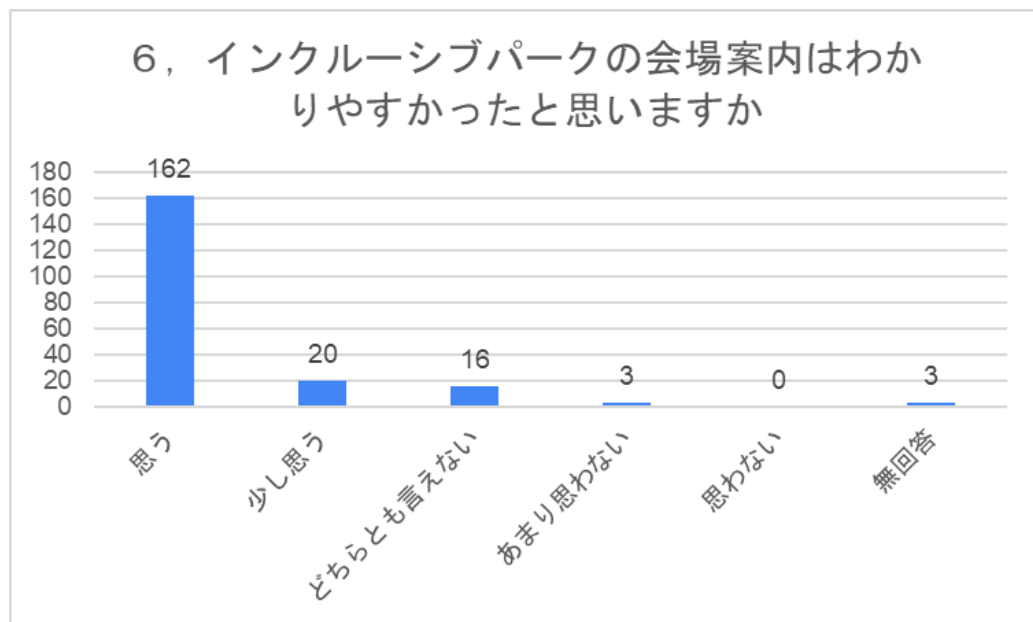
札幌会場



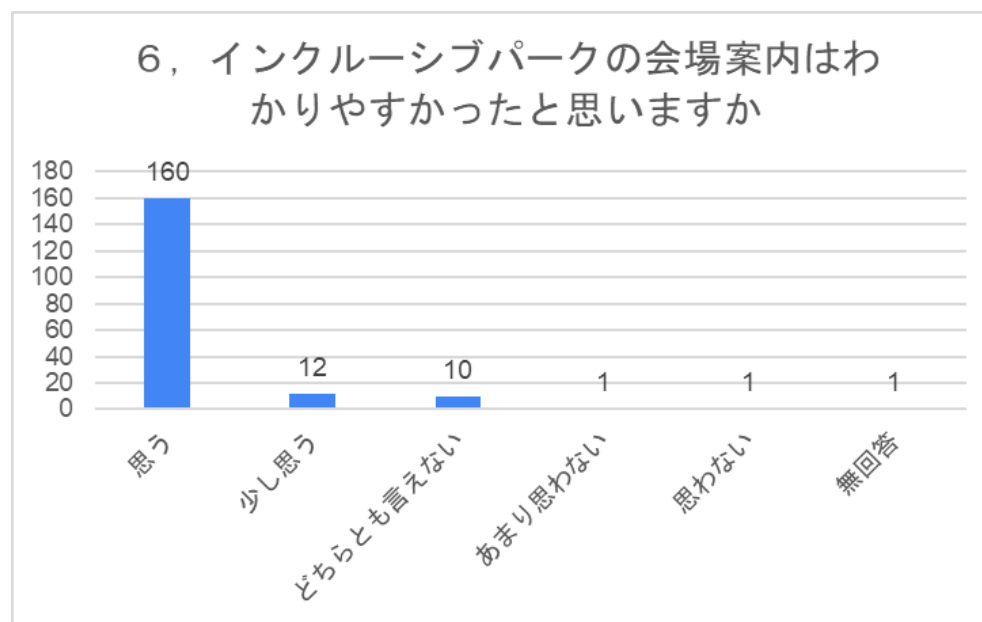
旭川会場

6, インクルーシブパークの会場案内はわかりやすかったと思いますか(SA)

札幌は、会場案内についてわかりやすかったと「思う」との回答が 162 名と最も多くなっていた。旭川も「思う」が160名と高くなっていた。



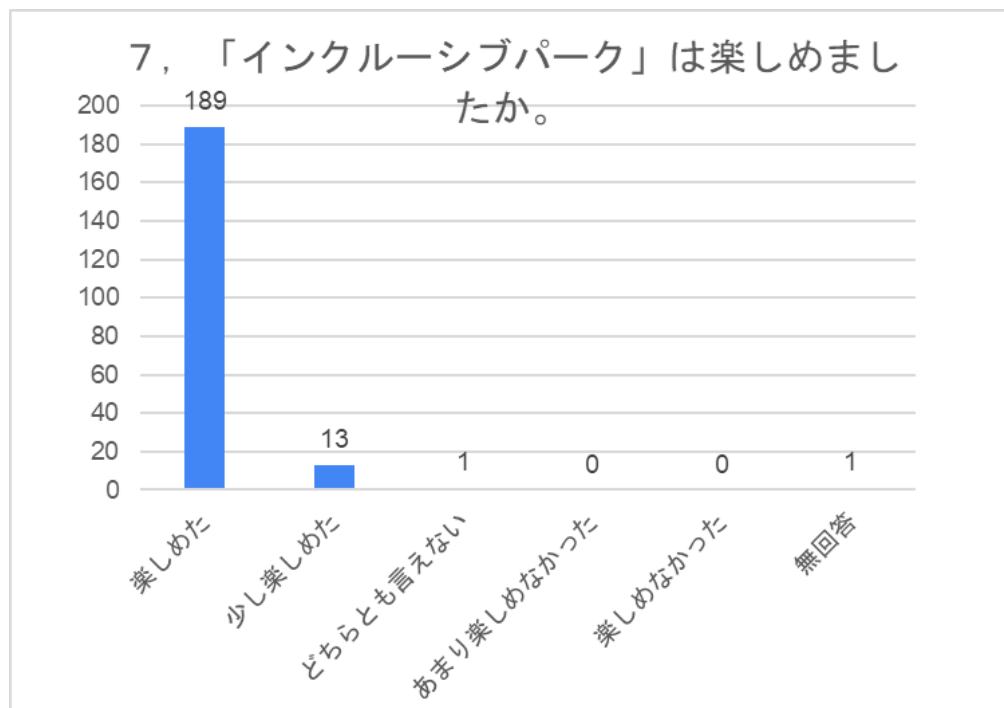
札幌会場



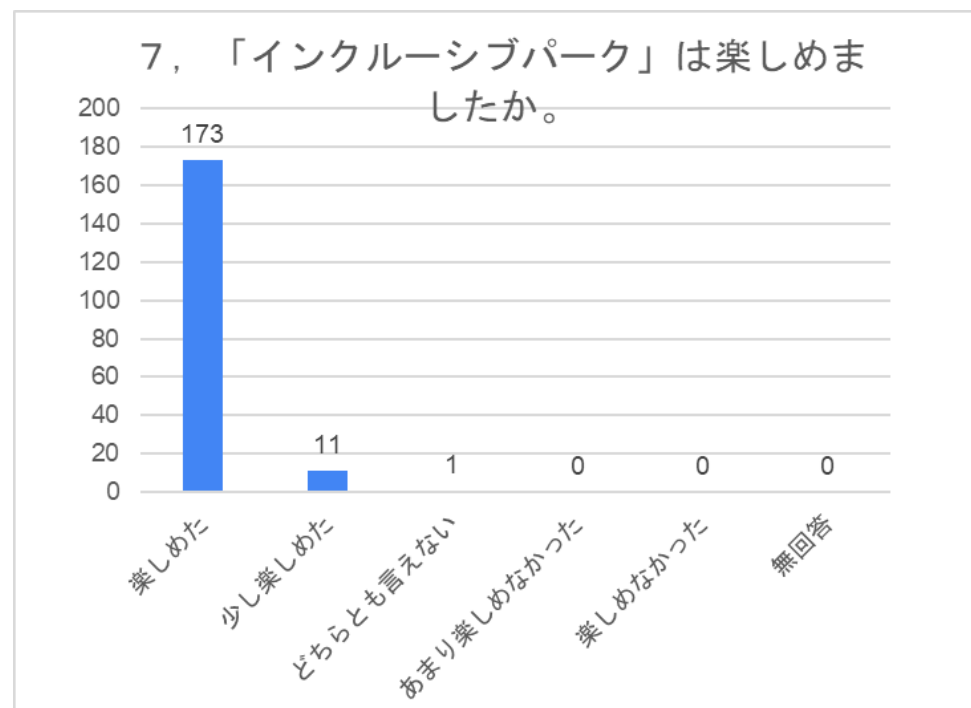
旭川会場

7,「インクルーシブパーク」は楽しめましたか。(SA)

札幌は、「楽しめた」が189名と最も多くなっていた。一方で「あまり楽しめなかった」「楽しめなかった」といった回答は0名であった。旭川も同様の傾向がみられた。



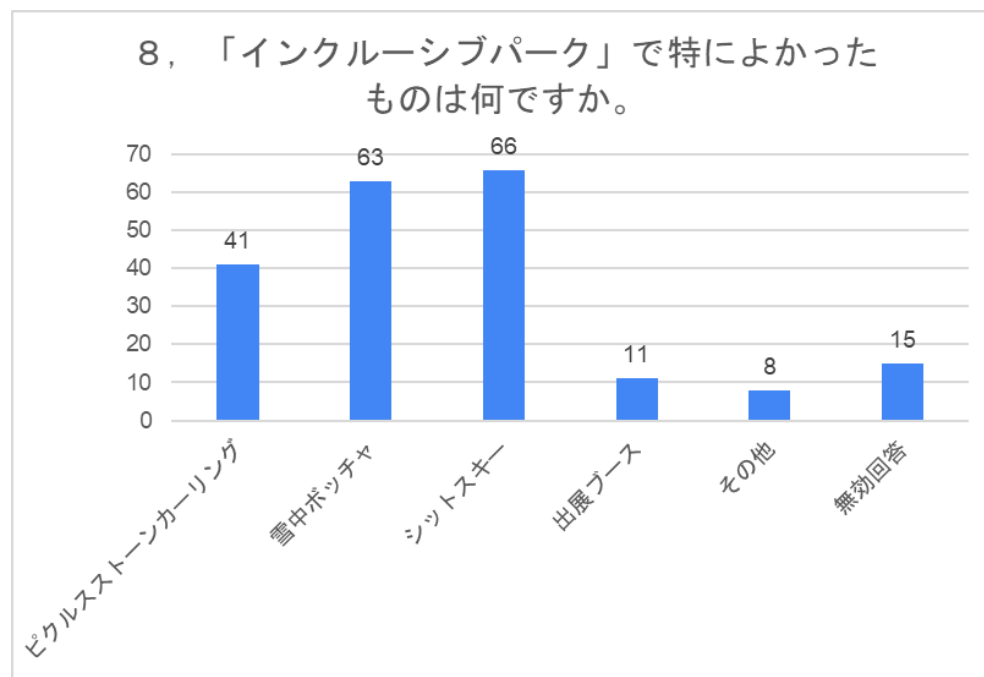
札幌会場



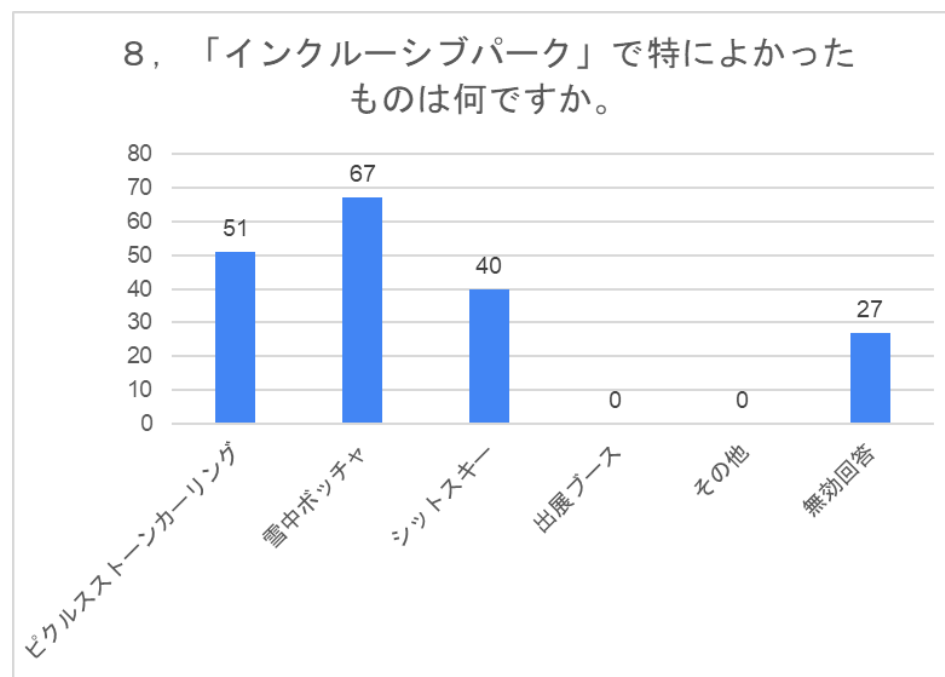
旭川会場

8,「インクルーシブパーク」で特によかったものは何ですか。(SA)

札幌は、「シットスキー」が最も多く66名、次いで「雪中ボッチャ」63名、「ピクルストーンカーリング」41名となっていた。その他では、展示ブースとしていたモルックも体験を実施しており、モルックとの回答が多く見られた。無効回答について、本項目は単回答としていたが、複数の項目に○をつけていたものであり、多くの体験の中で選べなかったものと推察される。旭川は、「雪中ボッチャ」が最も多く67名、次いで「ピクルストーンカーリング」51名、「シットスキー」40名と続いていた。無効回答も札幌同様に複数の項目に○をつけているものであった。



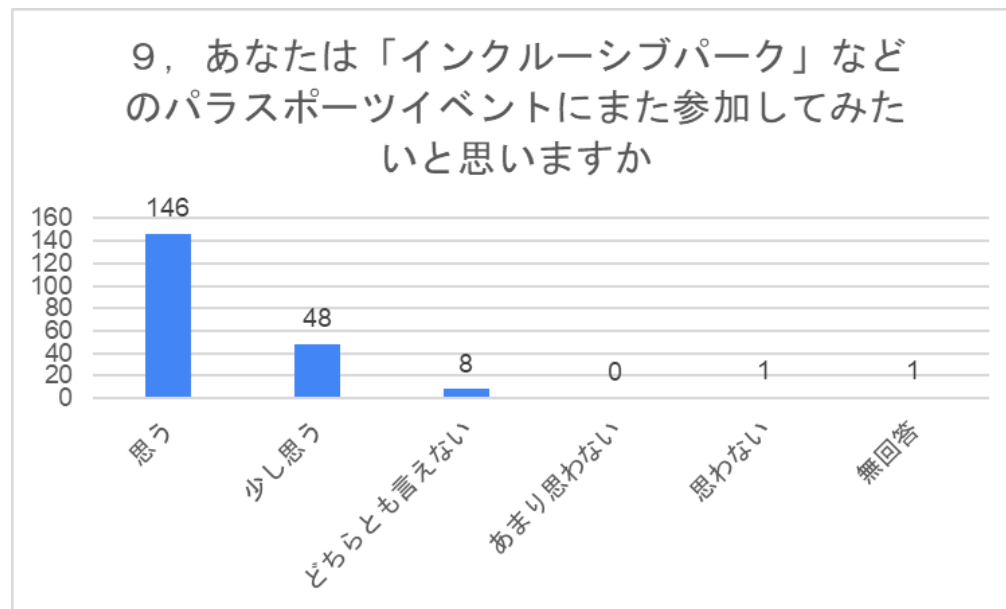
札幌会場



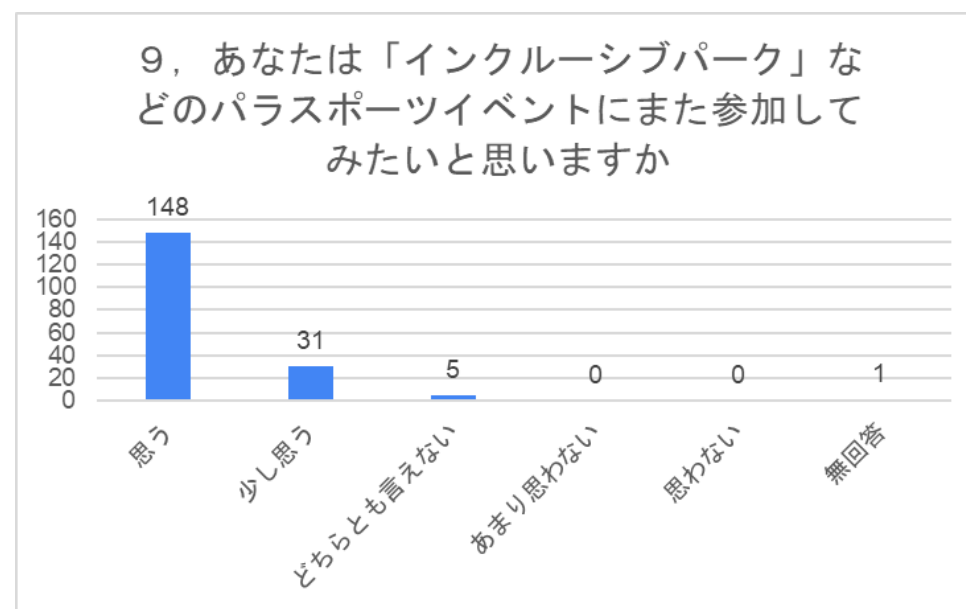
旭川会場

9, あなたは「インクルーシブパーク」などのパラスポーツイベントにまた参加してみたいと思いますか(SA)

札幌は、また参加してみたいと「思う」146 名、「少し思う」48 名と肯定的な回答が多くなっていた。旭川も同様に、「思う」148名、「少し思う」31名と高くなっていた。



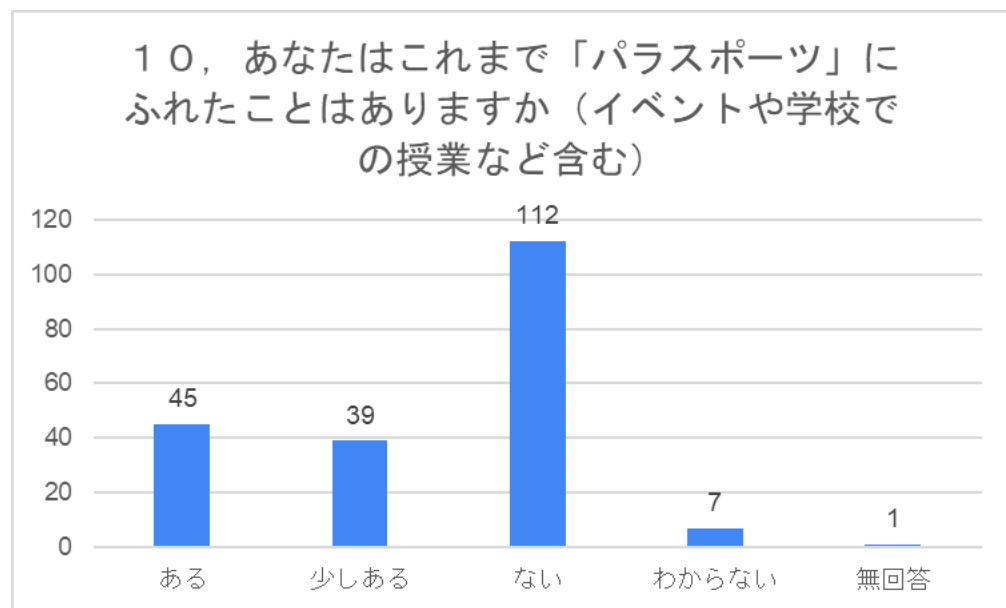
札幌会場



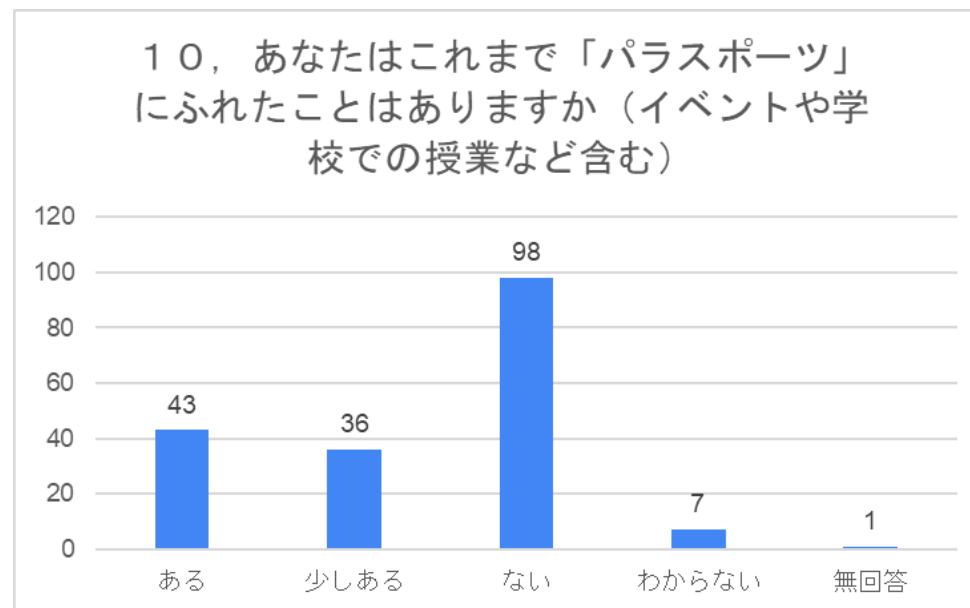
旭川会場

10, あなたはこれまで「パラスポーツ」にふれたことはありますか(イベントや学校での授業など含む)(SA)

札幌は、回答者の半数強である 112 名が、パラスポーツにふれたことは「ない」との回答であった。一方で、「ある」45 名、「少しある」39 名と、4 割程度のはパラスポーツ触れた経験を持っていた。旭川も、札幌同様の傾向がみられた。



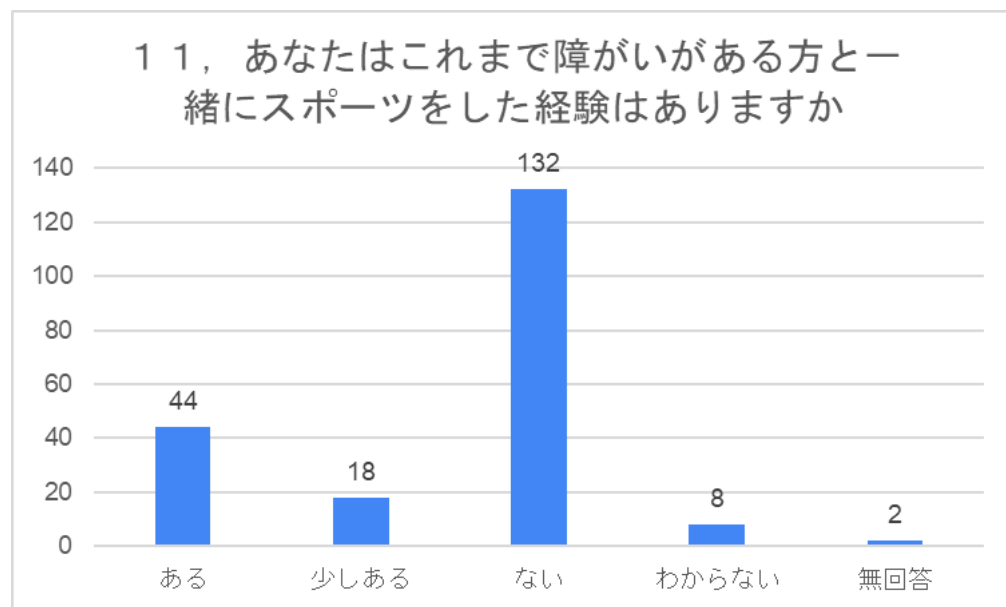
札幌会場



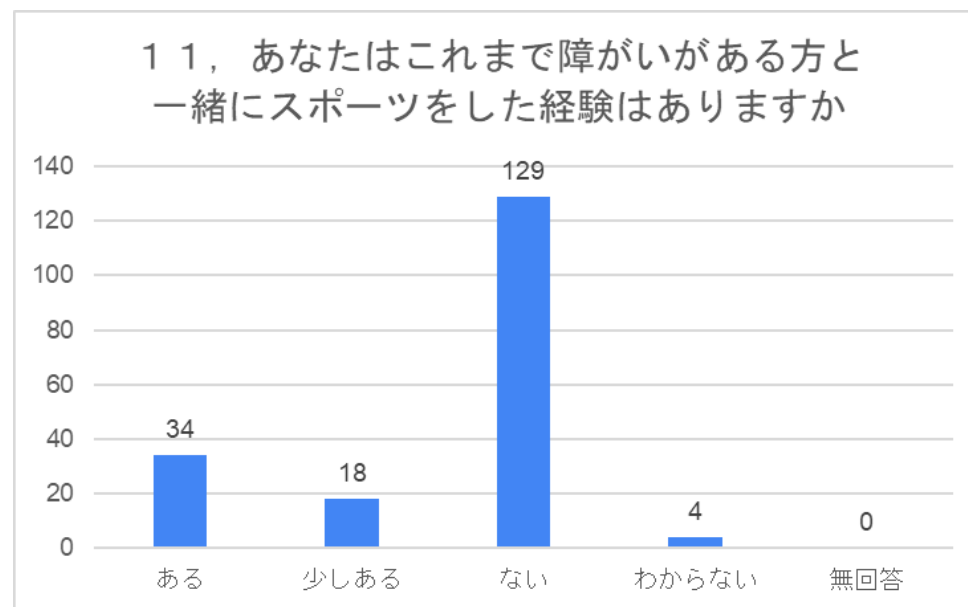
旭川会場

11, あなたはこれまで障がいがある方と一緒にスポーツをした経験はありますか(SA)

問 10 でのパラスポーツの経験に対して、札幌の障がいがある方とのスポーツ体験は「ある」44 名、「少しある」18 名と、比較すると一緒に活動した体験は少なかった。旭川も同様の傾向であり、「ない」の回答は129名と高くなっていた。



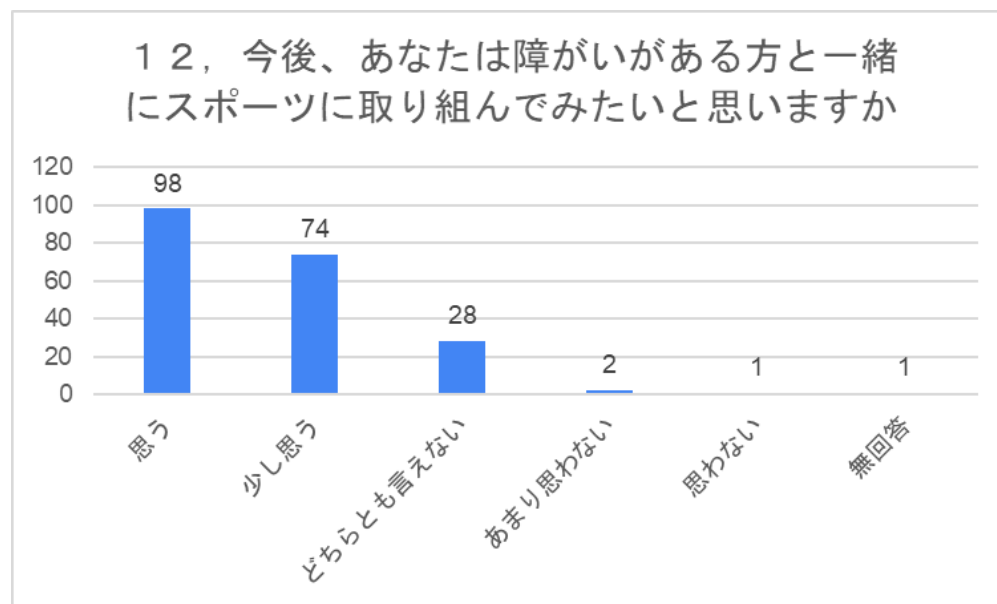
札幌会場



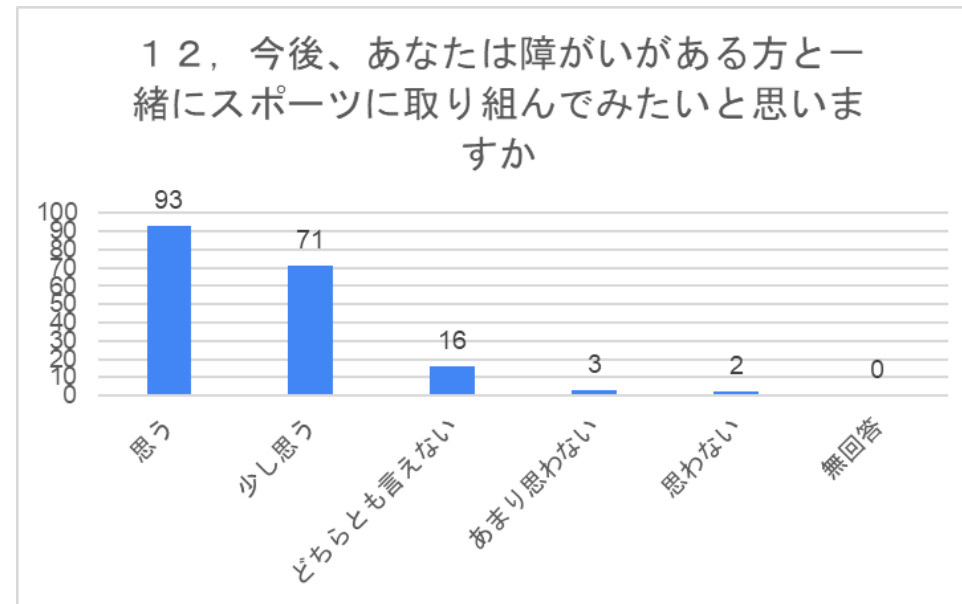
旭川会場

12, 今後、あなたは障がいがある方と一緒にスポーツに取り組んでみたいと思いますか(SA)

札幌では、今後、障がいがある方と一緒にスポーツに取り組んでみたいと「思う」98 名、「少し思う」74 名と 4 分の3程度が関心を持っていた。旭川についても同様の傾向がみられた。



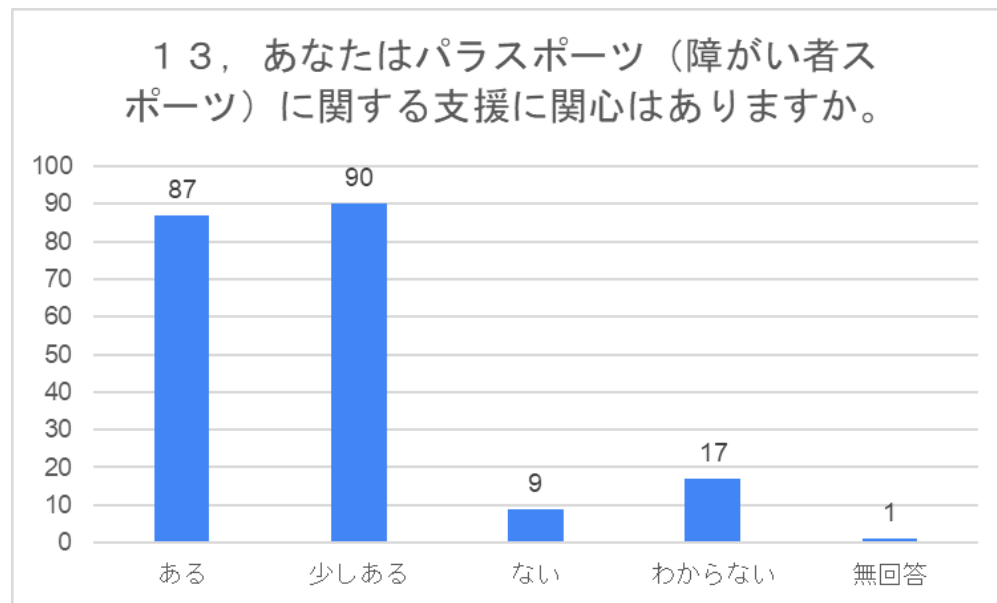
札幌会場



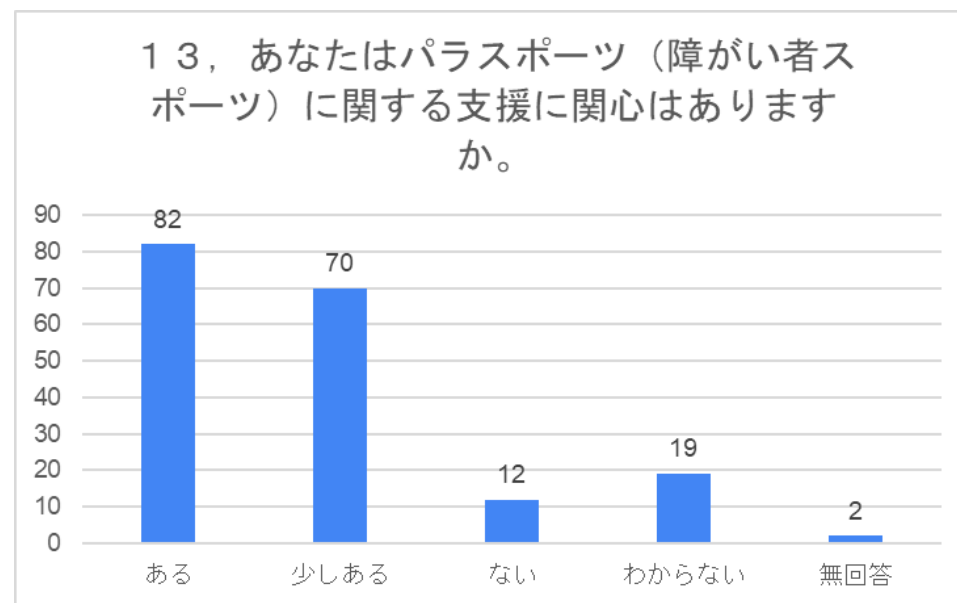
旭川会場

13, あなたはパラスポーツ(障がい者スポーツ)に関する支援に関心はありますか。(SA)

札幌は、パラスポーツの支援に関しては、関心が「ある」87名、「少しある」90名と、問12における一緒に取り組むことよりも、高い割合で関心を寄せていた。旭川も同様の傾向であったが、関心が「ある」が最も高く82名、次いで「少しある」70名と、札幌と若干違っていた。



札幌会場



旭川会場

14, あなたが実施できそうなパラスポーツ(障がい者スポーツ)に関する支援について、思いつくものがあれば教えてください。(自由記述)

札幌

チェアスキー 私ができるのはあまり思いつきません スキー カーリング ボッチャ よくわかりません。見かけたら手助けくらいできるかな？ スポンサーとして支援 募金 障害者と一緒にパラスポーツする たくさん障害者スポーツを体験する 募金 多くの方々に知っていただけるようSNS等で発信する 今日のようなイベントのお手伝いをしたいと思いました ランニングサポーター 応援すること、このような機会に参加すること 大学生なので、構内やサークルで企画できるかなと感じました 肢体不自由な方と一緒に不自由なままで(車いす)ゲームがしたいです。視覚障害の方と一緒に目をつむってゲームがしたいです。 テニス バレーボール	チャレンジドチア北海道 ボッチャの体験や大会を開く テニス 一緒にプレーする お手伝い 思いつくのはないが機会があればやってみたい 人々にこのようなイベントがあることなどを言葉で伝えるなど 支援ではないかもしれないが、自分でパラスポーツについてまとめて発信すること すごかった 一緒に楽しむ 一緒に参加 シットスキーを行う マラソン 大会の応援に行く よくわからない スキー この様な気軽に体験できる機会があれば、どんどんチャレンジしてパラスポーツについて見分を広めたいです よくわからない チャレンジドチア	受付とか イベントボランティア ジェットスキー シットスキー テニス 大会の手伝いなど 色々やる 応援に行ってグッズを買う お手伝い スポーツイベント手伝い 身体障がいの方の会場案内 雪合戦
--	---	--

旭川

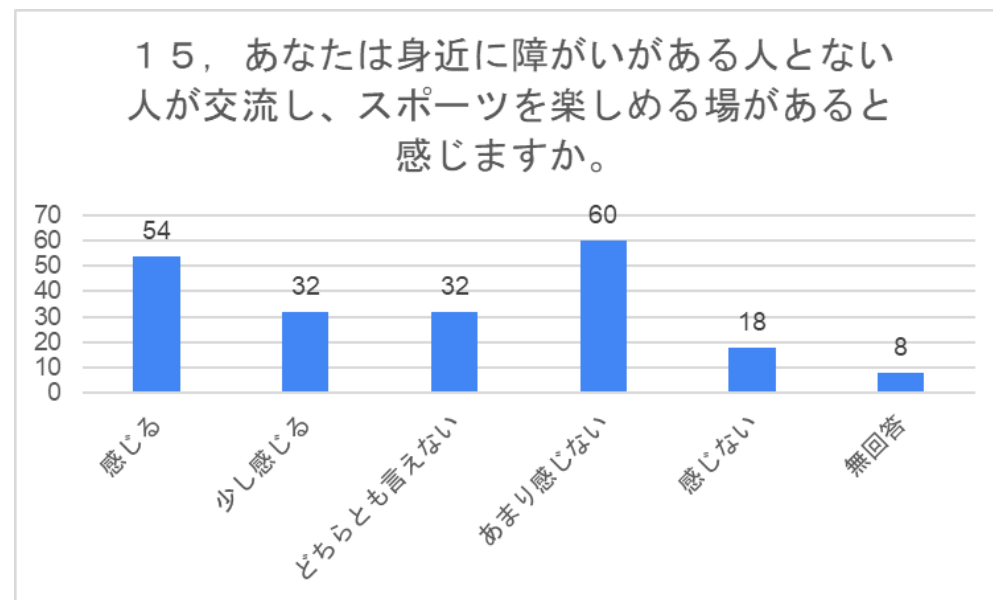
スノーボード、テニス シットスキー バスケ 救護 ボッチャ スキーゴルフなどできるもの 応援	全国大会を開く パラリンピックを見る スケート 体育館でボッチャ体験 ボッチャ 観戦する いっぱいこのようなイベントがあるといい
--	--

実施できそうな支援として、競技のサポートだけではなく、「一緒に」参加すること、「応援」することなども多く挙げられていた。

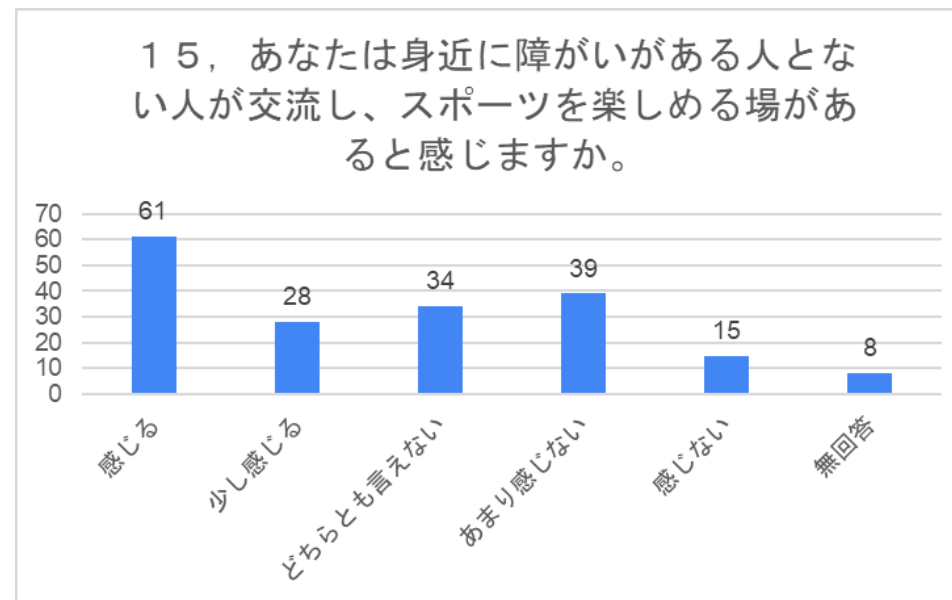
テキストマイニング

15, あなたは身近に障がいがある人となない人が交流し、スポーツを楽しめる場があると感じますか。(SA)

本項目は回答のバラツキがみられた。札幌は、「あまり感じない」が 60 名と最も多く、「感じる」54 名、「少し感じる」「どちらとも言えない」が 32 名となっていた。一方旭川は「感じる」が最も高く61名、次いで「あまり感じない」39名、「どちらともいえない」34名、「少し感じる」28名と続いていた。



札幌会場



旭川会場

16, その他何かありましたらご記入ください(感想やよかったこと、改善点など)(自由記述)

札幌

モルック楽しかった 北海道の良さを活かした遊びでパラリンピックの競技(パラスポーツ)をしてよかったです。 ぜんぶ楽しかった 楽しかったです 寒かった(笑) 楽しかった いろんな場があると良い 今日体験したものすべてが楽しかったです ぜんぶ楽しかったです 全部楽しかった 精神障がい者にもできるスポーツ たまたま会場を見つけたらとても楽しめました いろいろあって楽しかったです、とくにカーリングがおもしろかったです、ありがとうございました とても楽しかったです 会場設営 楽しかった わからない 全部楽しかったです とにかく全部楽しかったです。また機会があればやりたいです 本当にすべて楽しくてまた来たいと思えた 説明がわかりやすく楽しかったです 見るとするでは大違い、いい体験でした	はじめての体験ができて楽しかったです、ありがとうございました 札幌の中心でこういうイベントはすごくいいと思いました 体験することで楽しみ方もスポーツをされている方の大変さもわかって良いと思います 障がいがなくとも楽しめた こういう機会(イベント)が増えれば、理解も深まったりして良いと思う 楽しかったです カーリングが楽しかった カフェなどもう少しベンダーがあるとうれしい オープンな雰囲気だったので参加しやすくてよかった。どれも楽しかった。 とても楽しめました 頑張ってください 雪中ボッチャがたのしかったです 一人でも楽しめるようになっていてよかった。 ”Lots of fun! Thanks everyone! From Scotland to Japan, ありがとうございます！” おおきに！ インクルーシブの意味が良くわかりませんでしたがお店を覗いて買い物をして楽しめました。 冬スポーツ体験ができて良かった みなさん親切ですごくいい思い出になった。はじめてパラスポーツをした。
---	---

スポーツが面白かった テレビで見ているだけのことが体験でき、それがすごいことがわかってとても良いと思いました。応援したいと思いました。 シットスキーが楽しかった とても良い経験となりました、親切にありがとうございました 父と楽しい思い出ができました、ありがとうございます シットスキーを始めてやったのですが、大変さ、楽しさがわかりました。 やったことのないスポーツがたくさんできて楽しかったです 雪が楽しかった。特にスキーは肢体不自由の方もできます 楽しかったです、ありがとうございました 今まで見るだけだったスポーツを実際に体験できて楽しかった 久しぶりに運動したので、明日腕が筋肉痛になりそうです 寒い中お疲れ様でした。ありがとうございました。字が大きなアンケート用紙がとても助かりました。 今回ぐうぜん通りがかって参加させていただき、とても楽しかったです。 楽しかった、シットスキーの人が優しく教えてくれてよかった とても楽しかったです！シットスキーのコースがもう少し慣らされているとやりやすいかもしれないと思いました。 暖かい場所が増えるといいと思いました ボッチャが楽しかったです、またやりたいです すべて楽しかった 楽しめ、パラスポーツを知る良い機会でした 今日雪まつり参加たのしかったです ボッチャが楽しかった 子どもがすべて楽しむことができて良かったです	ゆったりと楽しめてよかったです 楽しかった 楽しかった。何も知らない参加だけでありがとう 自分もプレーしながらの支援 雪中スキーは障がいのある人の大変さを体感できてよかったです。疲れた、、、 応援してます、頑張ってください 楽しかったです すごく良いイベントでした、ありがとうございました ぐうぜん通りかかって参加しましたが楽しかったです 雪像があればいいな 楽しかったです、ありがとうございました シットスキーの大変さを実感して、選手をさらに尊敬しました バリアフリーの施設 シットスキーが特に楽しかった 夏にもイベントをやってください
---	--

旭川

カーリング楽しかった 楽しかったです おもしろかった 良い体験でした。子供にも良かったです。 楽しかったです。チラシにくわしい場所が書いてなかったのでもちよっとわかりにくかったです。 どれも楽しかったです。障害の有無に関係なくみんなが楽しく過ごせる社会になったらいいと思います。 とても楽しかったです。 雪中ボッチャが面白かったです。子供も楽しめる競技でした。 楽しめました 子どもが楽しくできていてよかった 体験できる機会、場所が少ない このような交流の場が多くあるとよいと思う。他人事で申し訳ないのですが。 もっとこのようなイベントがあればより知れて楽しめると思いました。 ボッチャが楽しかった 車いすバスケ とても楽しかったです。旭川でインクルージョンなスポーツ・取り組みされているのはとてもほこらしいです カーリング楽しかった、大人でも楽しかったです。 カーリングが楽しかったです 楽しそう 楽しかったです 誰でも楽しめる	良い経験ができました 全部楽しかったです。またやりたいです 本日は参加させていただきありがとうございます。楽しかったです 全部楽しかったです。 ボッチャ楽しかったです 今回のような取り組みが多いととても良いです ボッチャが楽しかった 楽しかったです ボッチャが楽しかった スキーのコントロールが難しかった 寒かったけどめっちゃ楽しかったです。 シットスキーを始めて体験させていただき楽しかったです。このような場を設けていただきありがとうございます。 楽しめました 楽しかったです～ありがとうございました ボッチャ楽しかったです 子どもも楽しめました 楽しかったです 楽しかったです 楽しかったです 楽しかったのもう一回やってほしいです 楽しかったボッチャのルール説明がうまかった 楽しめました。いろいろなスポーツを 楽しかったです とっても楽しかったです。ありがとうございました。
--	--

冬のスポーツを体験できるのがよかった ボッチャがどこに売ってるのかなと思う。初めて見ました こういう機会をたくさん増やしてください。今回も参加できて良かったです。ありがとう たのしかったです 楽しかったのでまた来ます	めっちゃ楽しかったです。いい体験ができて良かったです
---	-----------------------------------

自由記述の中では、「楽しい」といった表現が多く挙げられており、回答者が楽しんで参加できていたことがうかがえた。

考察

- ・開催場所や時期によって、来場者の特徴に違いがみられた。札幌では、海外や道外の回答者割合が高くなっていたが、旭川では北海道内の参加者が札幌より多くなっていた。また、年齢層について、旭川では小学生と 30 代 40 代の割合が高くなっていた、これは、親子で来場し、体験する傾向があったと推察される。一方で札幌では、40 代が特に高いものの、成人の回答が多くなっていた。観光者も多くその年齢層と重なることが推察される。
- ・アンケート回答者の多くは障がいがないものであった。特に肢体不自由など身体障がい者は少なく、冬季の屋外移動に関する課題も影響していると考えられる。
- ・来場者の多くは会場をみかけての参加であった。ウィンタースポーツは、郊外で行われることも多く、市街地での開催は有効であったと考えられる。また、パラスポーツの理解促進を進めるにあたっては、イベントが目前にあり、その場で気軽に参加してみよう思えることが、一つのきっかけになると考えられる。近年では商業施設での体験会も開催されており、同じような効果が得られていると考えられる。一方で、チラシ等の周知により広報していくことで障がいがある人を含め、情報を提供することも一定程度の効果を生んでいると考えられる。費用対効果なども念頭に置きながら、どのような人を参加の中心とするのかを踏まえ、広報を進めていくことも重要であろう。
- ・特によかった体験については、各競技挙げられ、偏りも大きくなかったことから、今回の種目はどれも有効なものであったことが推察される。さらに、「競技を体験した」ということだけで終わらせるのではなく、インクルーシブな参加としての経験や、その後の活動につながっていくような場とする工夫も今後検討が必要である。体験者の半数以上がパラスポーツに触れた経験がなく、さらには障がいがある人と一緒にスポーツをした経験がないものもそれ以上に存在することから、身近なスポーツとして一緒に楽しめる点について理解を深めてもらえると良いと考える。
- ・今後障がいがある方と一緒にスポーツに取り組んでみたいととらえているものが、ほとんどであることから、この点を実現させる取り組みにつなげていくことも重要である。パラスポーツの支援について関心が「ある」「少しある」ものが 8 割程度っており、この点からも、継続した取り組みとなりきっかけを作ることが求められる。
- ・障がいのある人との交流、一緒に楽しめる場があるかについては、回答にばらつきが多いものの、「あまり感じない」「感じない」といった回答が 3 割程度を占めており、この点を少しでもゼロに近づけていくことが求められる。

(2)スタッフアンケート調査

実施方法

質問用紙、および QR コードによるフォーム入力を可能とした。各イベント日程最終日にアンケートへの回答を依頼した。

有効アンケート回答数、札幌会場 39 名(n=39)、旭川会場 13 名(n=13)であった。

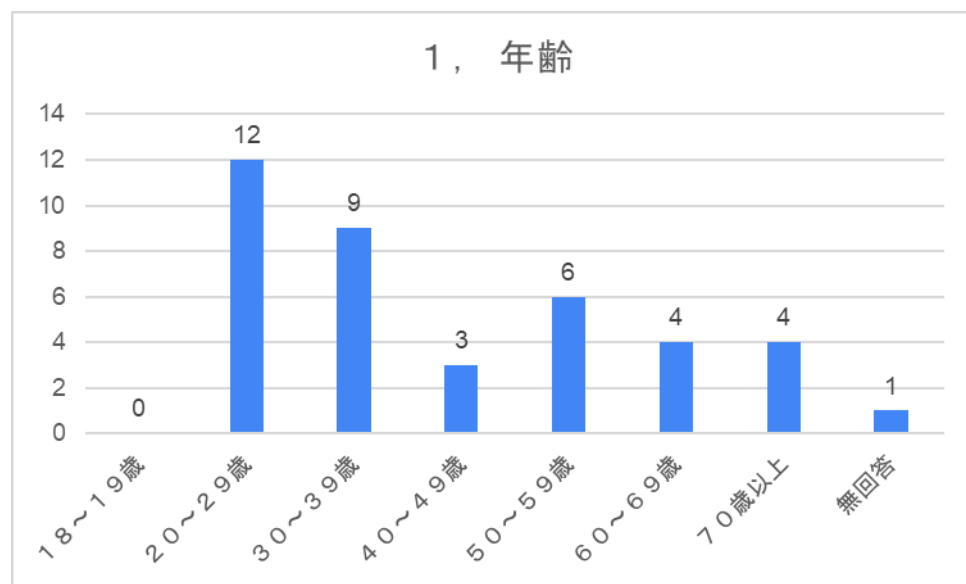
①単純集計結果

※表記について、単回答項目は(SA)、複数回答項目は(MA)と記載する。

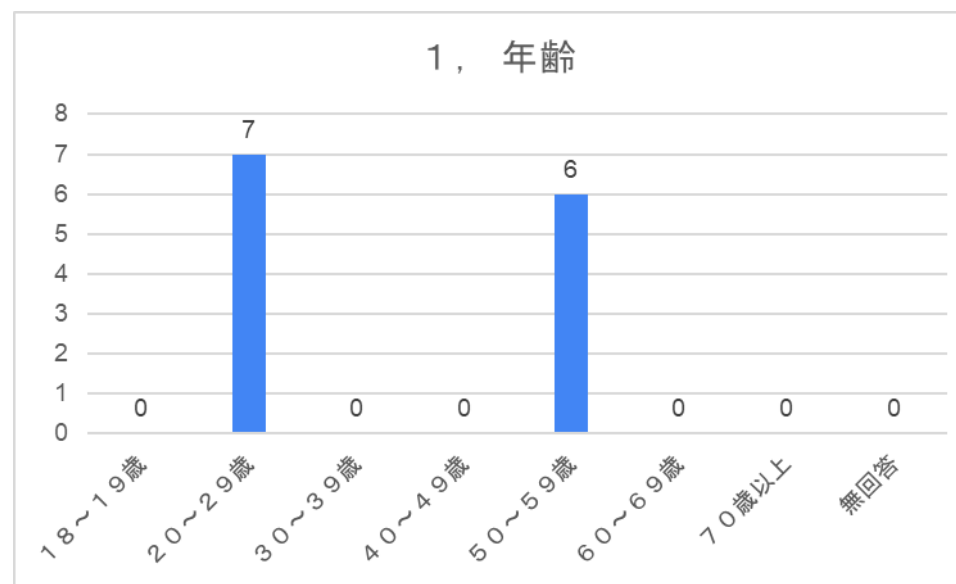
単位はすべて「名」とする

1, 年齢(記述)

回答者の年齢について、札幌会場では「20 代」が 12 名で最も多く、次いで「30 代」9 名となっていた。旭川会場では、「20 代」が 7 名、「50 代」が 6 名となっていた。



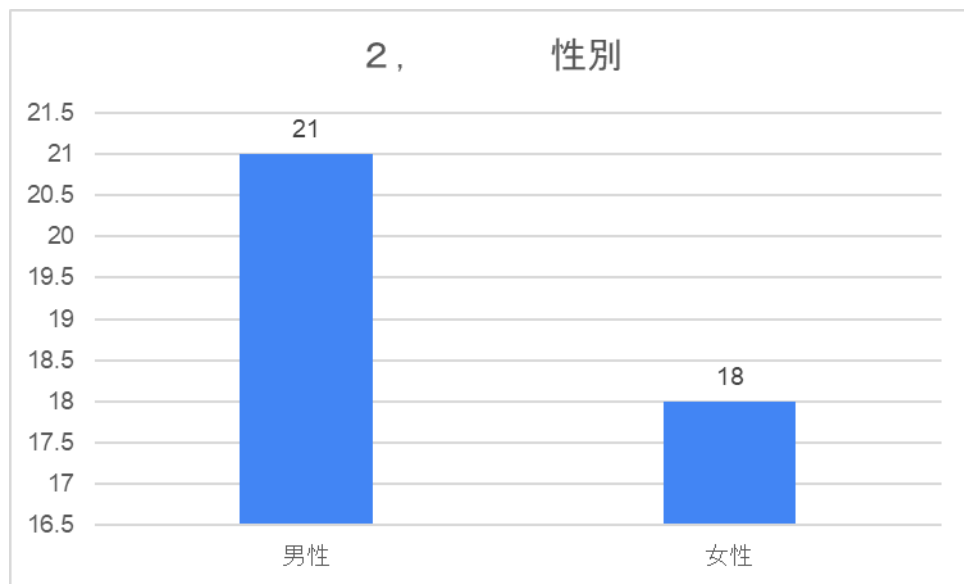
札幌会場



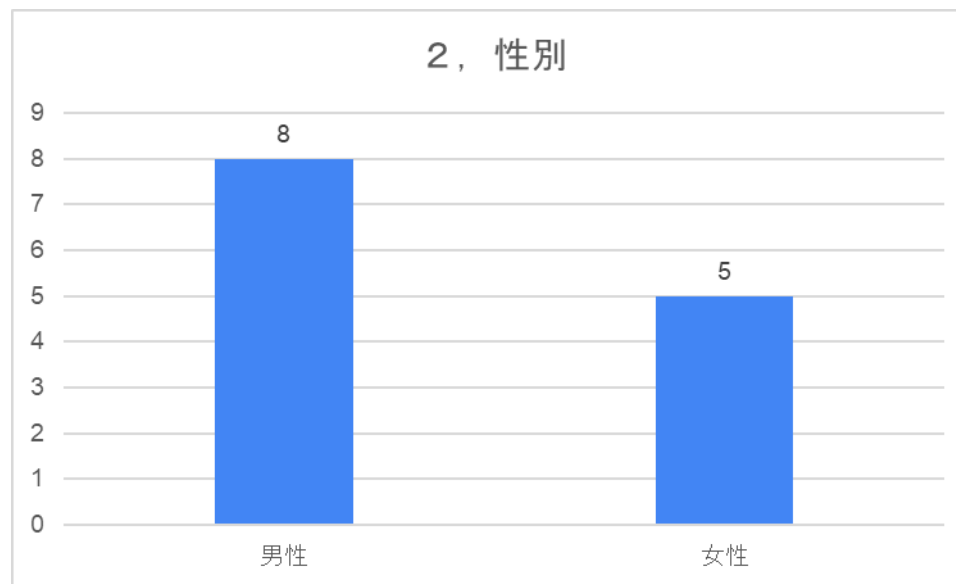
旭川会場

2, 性別(SA)

札幌会場は、「男性」21 名、「女性」18 名あった。旭川会場は「男性」8 名、「女性」5 名であった。



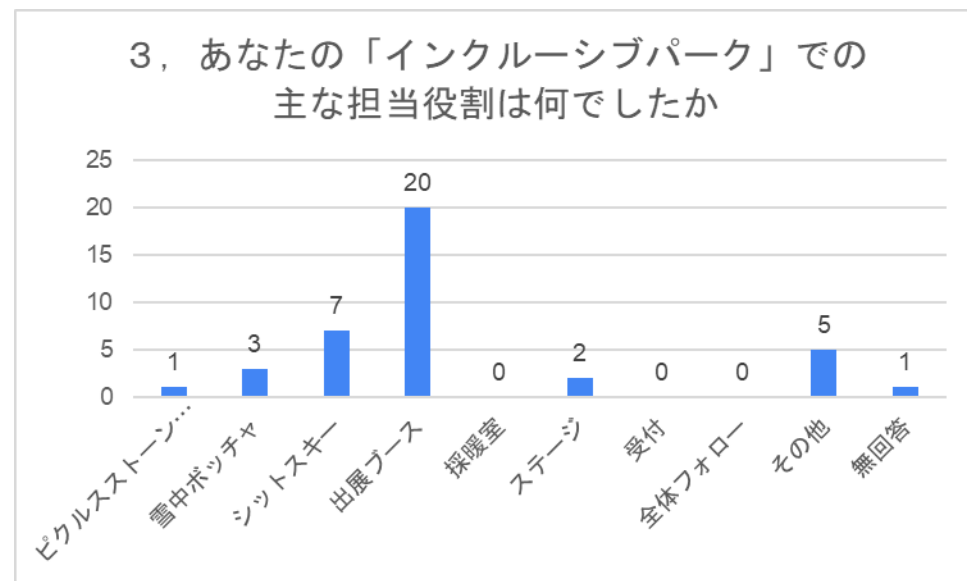
札幌会場



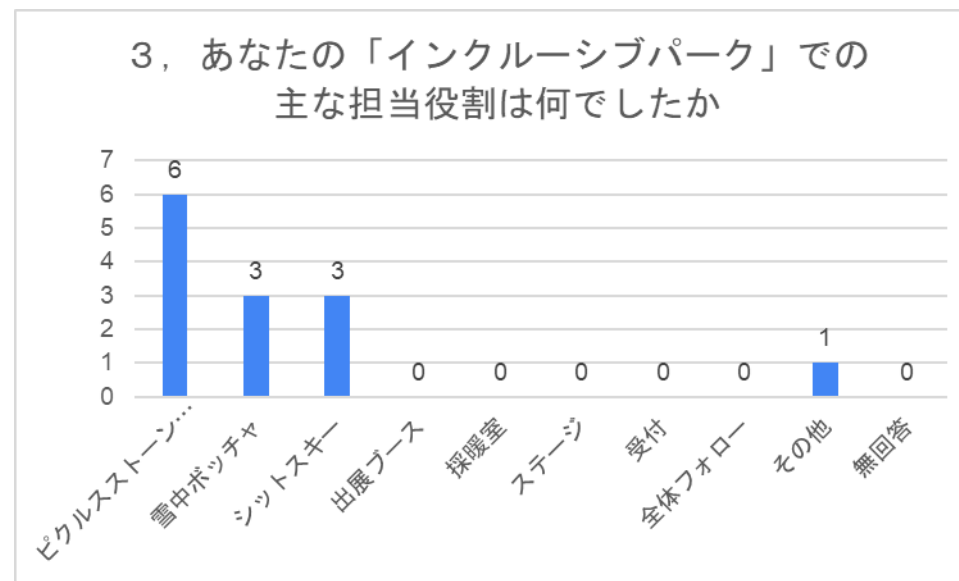
旭川会場

3, あなたの「インクルーシブパーク」での主な担当役割は何でしたか(SA)

札幌会場では「出展ブース」があり、多くのスタッフ関わっていた。旭川会場では、スケートリンクを活用した「ピクルストーンカーリング」を実施したため、6名と札幌に比べスタッフ回答数も多くなっていた。



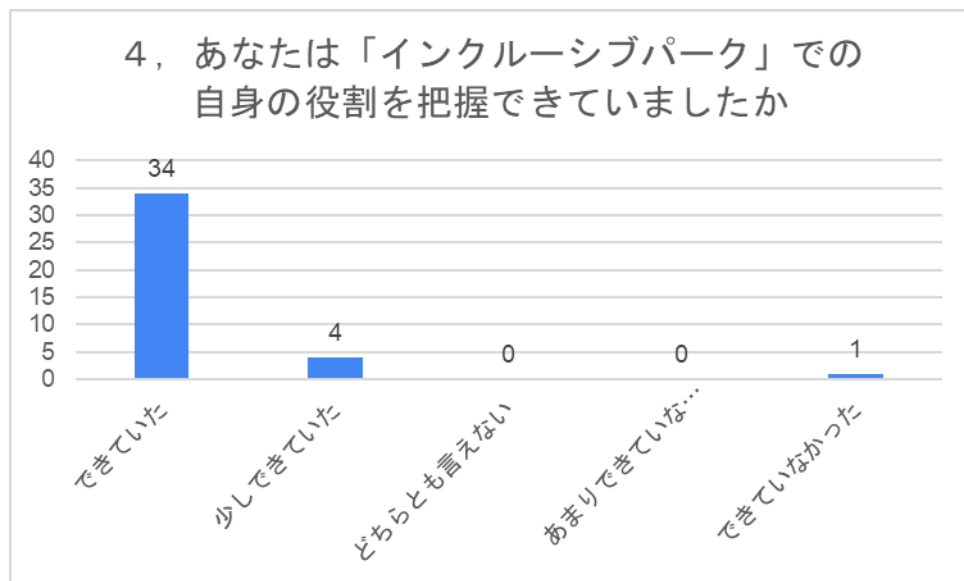
札幌会場



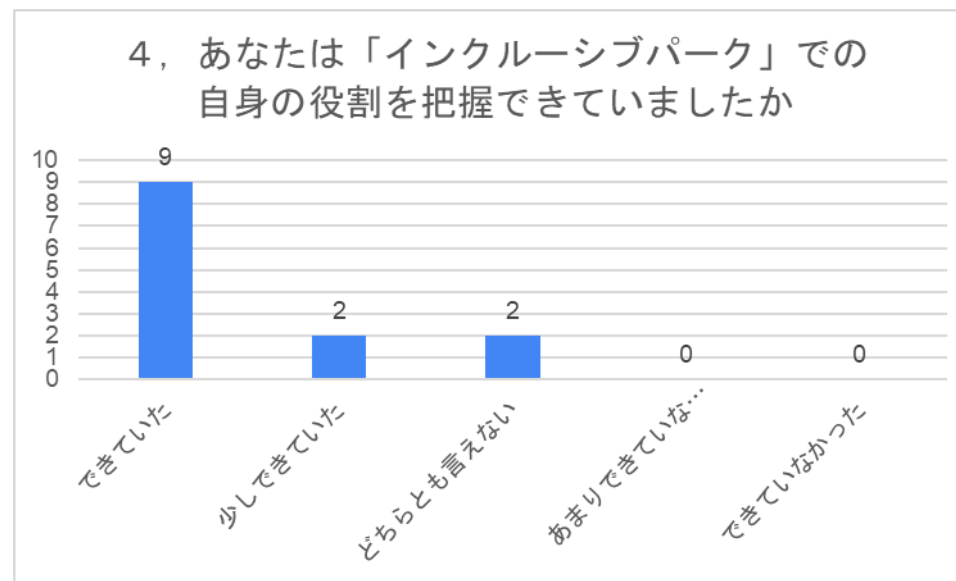
旭川会場

4, あなたは「インクルーシブパーク」での自身の役割を把握できていましたか(SA)

札幌、旭川共に役割を把握「できていた」が最も多くなっていた。一方で旭川では「どちらとも言えない」も2名の回答がみられた。



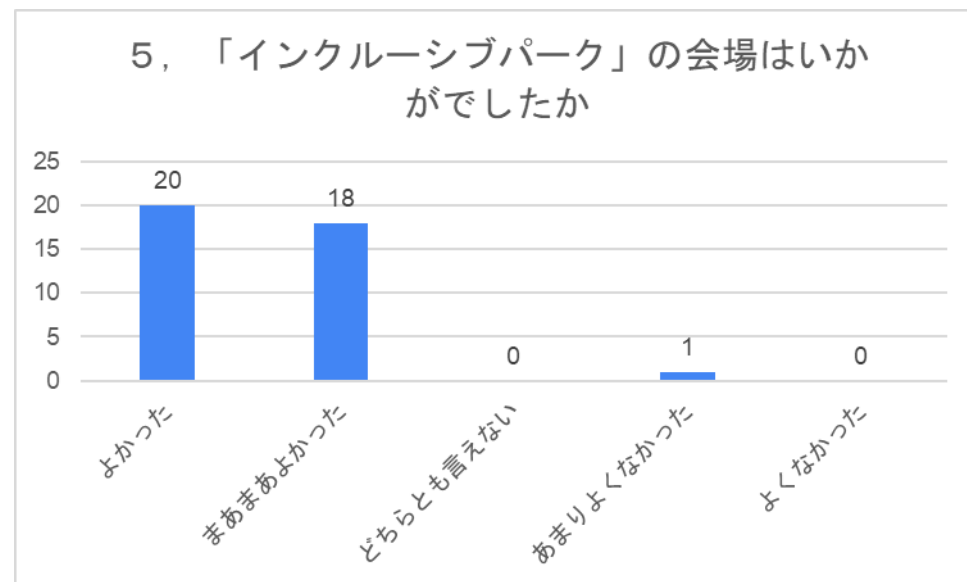
札幌会場



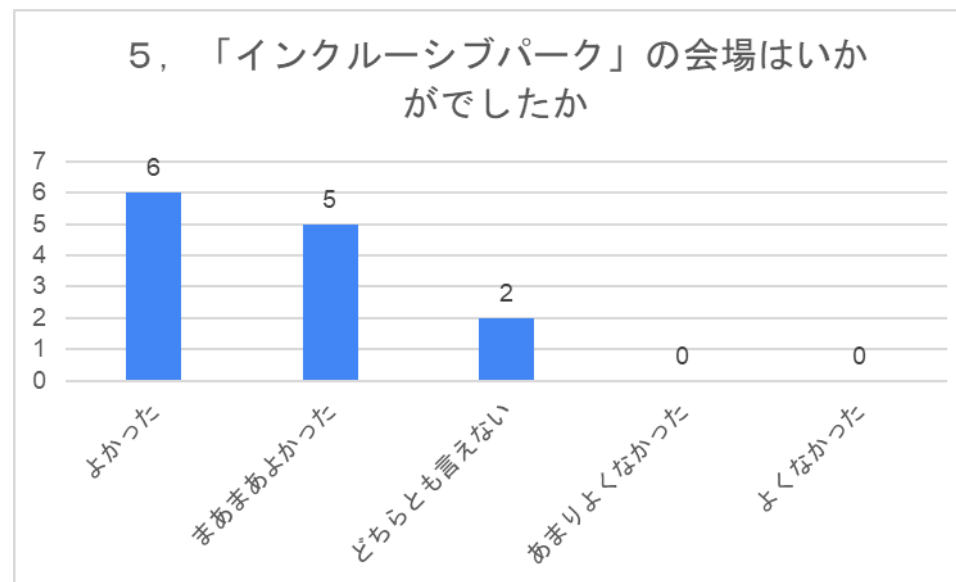
旭川会場

5,「インクルーシブパーク」の会場はいかがでしたか(SA)

会場については、札幌、旭川共に「よかった」「まあまあよかった」が多くをしめていた。



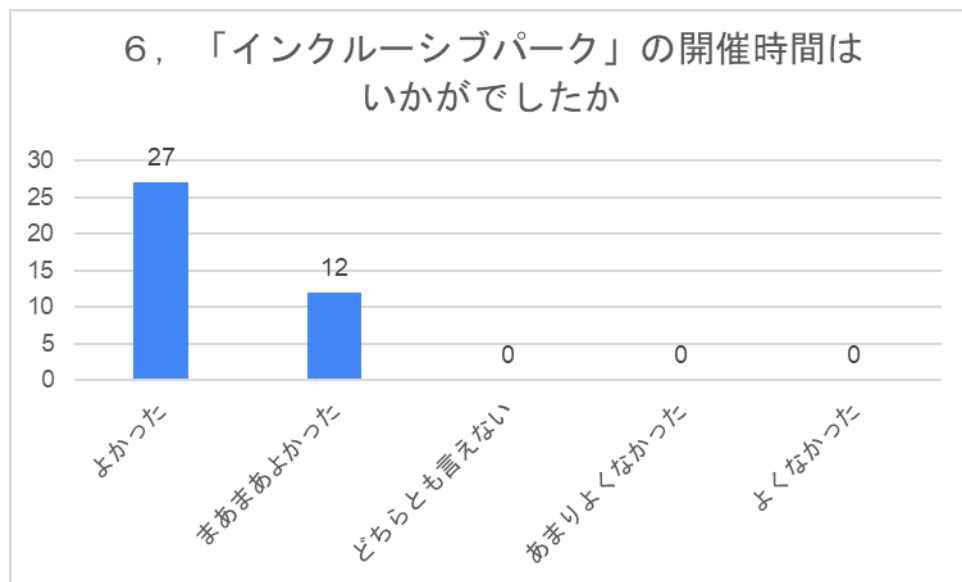
札幌会場



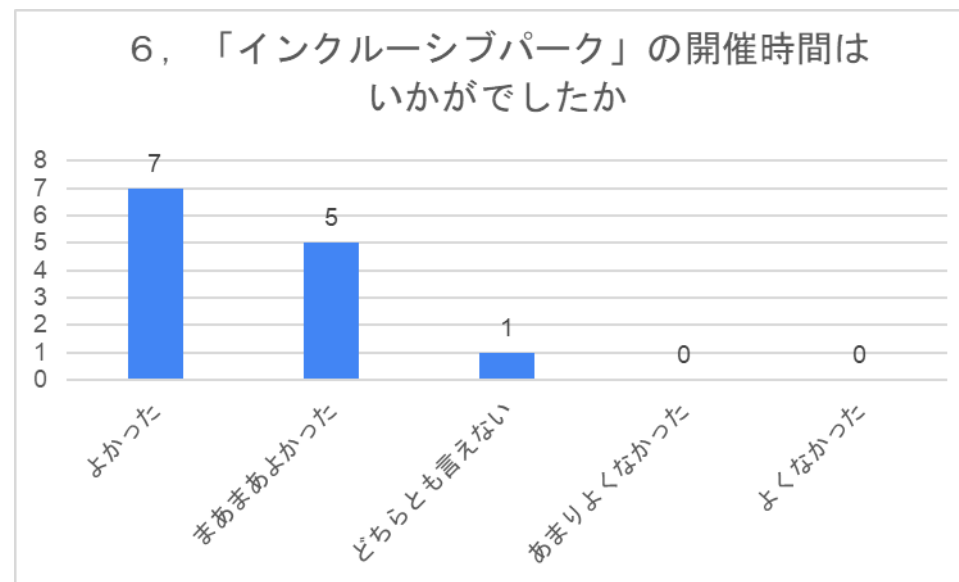
旭川会場

6,「インクルーシブパーク」の開催時間はいかがでしたか(SA)

開催時間について、札幌、旭川共に「よかった」「まあまあよかった」が多くをしめていた。



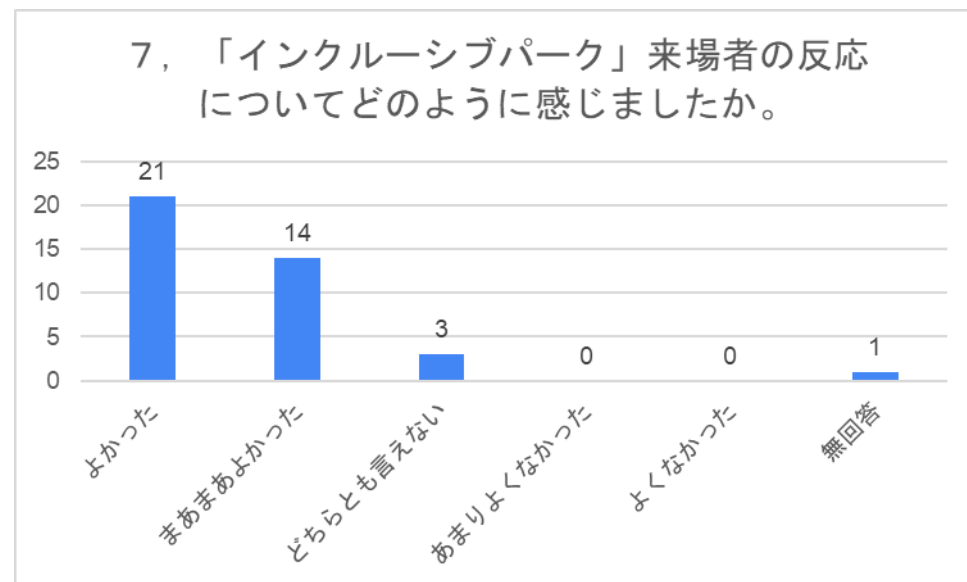
札幌会場



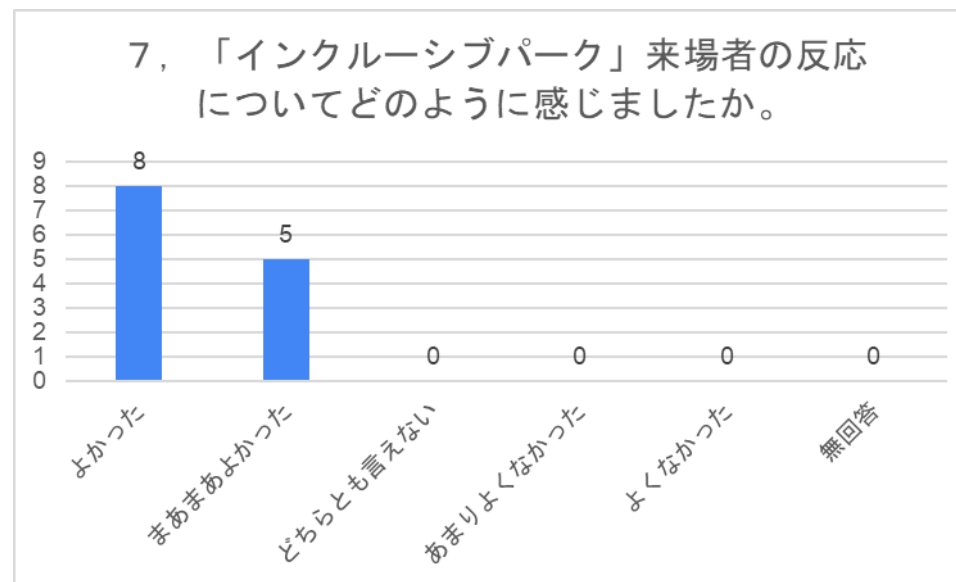
旭川会場

7,「インクルーシブパーク」来場者の反応についてどのように感じましたか。(SA)

来場者の反応について、札幌、旭川共に「よかった」「まあまあよかった」が多くをしめていた。札幌では、「どちらとも言えない」も3名見られた。



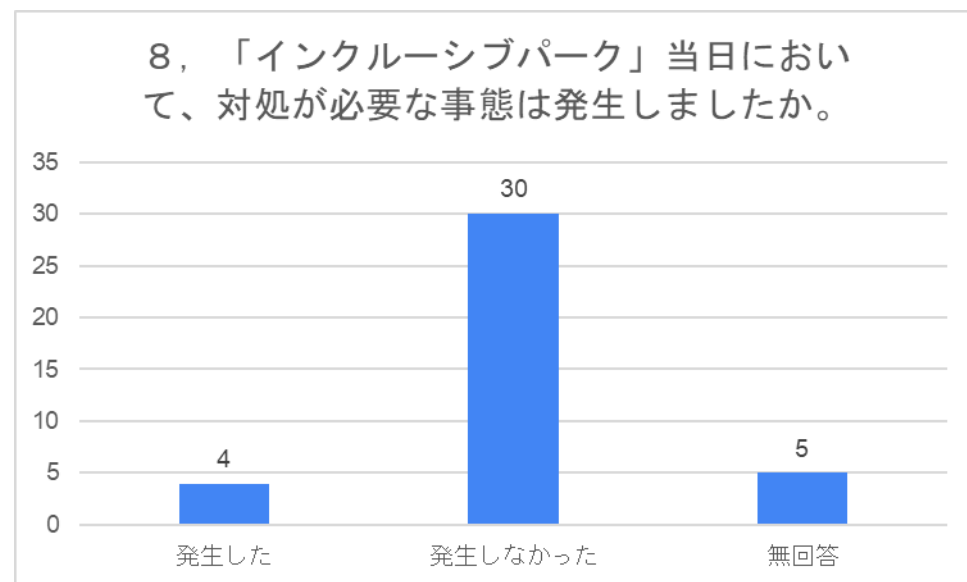
札幌会場



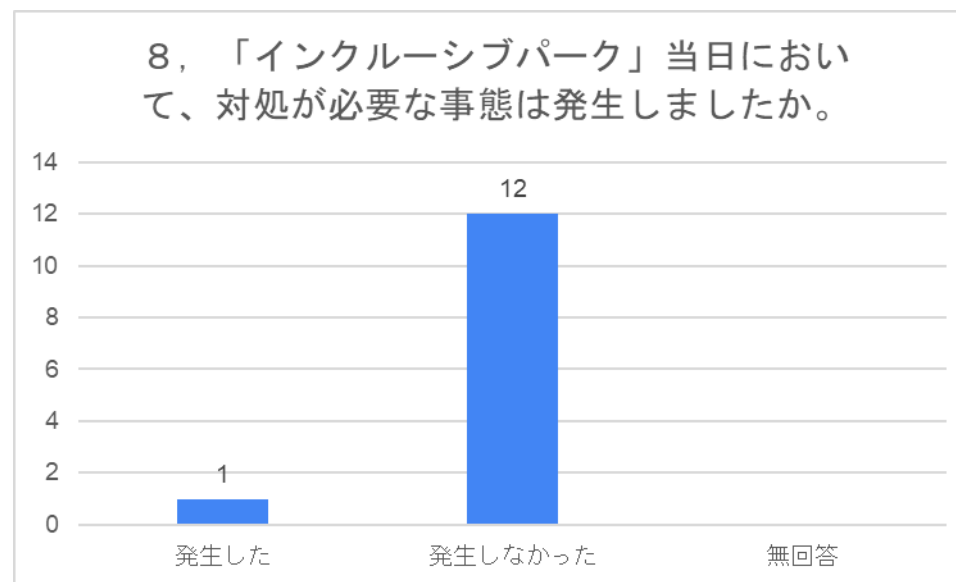
旭川会場

8,「インクルーシブパーク」当日において、対処が必要な事態は発生しましたか。(SA)

当日の対処が必要な事態について、札幌会場では4名より、旭川会場では1名より「発生した」との回答がみられた。



札幌会場



旭川会場

8-2, 対処が必要な事態の具体的な内容(記述)

札幌

穴がぼこぼこあいてきたので、倒れたり(転んだり)してきた。穴は埋めたけど固まらない
 ストーンを戻したときに来客にあたった
 海外観光客への案内
 発電機の燃料不足、長机、イス、競技コーナーなど

旭川

怪我人の対応

9、「インクルーシブパーク」の事前準備についてよかった点があればご記入ください。

札幌

テントも設営していただけた、対応がありがたかった
途中で話しかけて楽しいと言ってくれていたのが良かったです。
連携が取れていたと思います
とても喜んでもらえた
2日目シットスキーを会場に運んでいただけて助かりました。ありがとうございました。
ボッチャボールの仕様
雪中ということででこぼこがあってボールが変化するの面白かった
実行委員会形式なので分担がわかりやすい
観光客が多い
カーリングが呼び込みとなる各競技への誘導は良い流れだった。
用意が周到であったこと

旭川

SNSの拡散がよかった

9-2、「インクルーシブパーク」の事前準備について改善点があればご記入ください。

札幌

事前にもう少し出店場所の状況や搬入・搬出など情報・説明が欲しかった。
英語で話しかけてくる方もいたので、もう少し英語しゃべれるように準備しとけばよかったと思いました
除雪対策
詳細事前説明やや不足。集合時間は、の声もあり
コートにラインをどうつけばよいかが工夫が必要
体験者の待機場所がなかった、除雪してほしい
雪まつりの会場から少し遠いので、近いと来客数は増えるかなと

告知機関がもっとあると良い
英語表記など海外観光客向けの案内場所があればよい
競技コーナーと展示コーナーの備品のすり合わせ不足
各ブースにスタッフが複数いてよかった
MCの方が積極的に来場者を誘導してくれた
運営側での助け合いが多く、和やかな雰囲気で行う事ができたこと
人員配置不足、各コーナーの役割の打ち合わせ不足

旭川

前日の作業人数にも影響するので、作業内容を事前に周知してほしかった。
事前の情報共有が遅く、前日準備の具体的な作業内容についても現地に行ってから聞かされたほどで、情報の内容、共有の時期など改善を求めたい。
道の中で札幌担当チーフと旭川担当チーフがいればより現場との連絡がスムーズになったかと思います
指示を迅速に明確にすること
振興局が手伝う内容が不明確すぎた。
雪かきが足りなかったので、もう少し雪かきがあったら良かったのではないかと思います。
競技説明の看板が欲しいです。
一回一回説明すると少し効率悪いです。”

10、「インクルーシブパーク」の当日運営についてよかった点があればご記入ください。

札幌

販売製品の保管、2日目の準備等お手伝いいただきましてとても助かりました
スタッフの方が荷物を運んで下さり助かりました
スタッフが何かあれば細かく対応してくれて大変助かりました
じゃんけん大会が楽しかった。入り口近くに看護、救急受付があるのがわかりやすくてよかった
皆さん明るく元気だったこと

はじめて体験して楽しいと言ってくれて良かったです。
連携が取れていた
時間があるときに体験できてよかった
積極的にお客様へお声かけできて楽しんできた
すべてよかった
来客が楽しめていた
冬遊びのアイデアはとても良かったです。
外人のお客様の反応が良かった
天候が悪天候になって大変でしたがそれも良しかも
すべての運営が協力できてよいです
人数が多くて対応しやすかった
スタッフみんなが積極的に声をかけ、会場の雰囲気を作っていた

旭川

連携がうまく取れていた。雰囲気が良かった。
スタッフが楽しそうに従事していたことが一番かと思います
大学生のバイトを入れたのは良かった。
皆さんとお会いするのは初めてで、お仕事自体も初めてのことばかりでしたが、皆さんにとっても優しくしていただきました。最初にボッチャのやり方を丁寧に説明していただき、困った時は色々なフォローをしていただいて本当に助かりました。
スタッフの中に外国語を話せる方が居たので観光客の方も楽しく参加出来ていたのが印象的でした
駅前で、冬まつりだったので多くの方が訪れてくれた

10、「インクルーシブパーク」の当日運営について改善点があればご記入ください。

札幌

坂が少し急だったので緩やかにした方がよかったです。

ゴミ捨て場があった方がよい

コーンやネットでエリアを分けた方がよいかと思った

スタッフの人数が1日目はうまく集まらなかった時間があったが、2日目は改善できた

もっとちゃんと除雪をすればよかった(平らになるまで)

寒さ対策→テントをプレハブにしたら

出展テントの暖房をもう少し暖かくしてほしかった

障害者の来場数をきかれても見た目では判断難しいです。外国人向けの案内があると助かりました

雪が降ったときの対応

スタンプラリーの動線をわかりやすく

簡易的なものでもよいので、ステージが一つあると会場雰囲気のメリハリがつきそう

展示コーナーテントへの誘導に一考、競技コーナーの順路、モルックコーナーとの融合(スタンプ不参加)による場所の困惑

夏にもイベント開催してください

すごく楽しかったです！ありがとうございました！！

ややプレーエリアが狭く、スキーとぶつかりそうでした

なし

旭川

天気気温ともに恵まれたため問題なしとされてしまうのかもしれないが、荒天、厳寒の場合休憩の頻度を増やさないとスタッフの体力が保たないと思われます。悪条件に備え人員数はもっと確保すべきだったと思う。

初めての割には上手くいったかという印象ですが、天候次第のところがあるので並んでる利用者待機場やスタッフ等の休憩所の確保は今後必要かもしれないと思います。

きちんと、人が足りないところのサポートをする

11, その他何かあればご記入ください。

札幌

2日間至らない点もありましたが、ありがとうございました
運営アシストさんたちとても助かりました。ありがとうございます。
奥への人の流れがもっとあればよかった
ありがとうございました！

旭川

二日間大変お世話になりました。迷惑をおかけする事が多々あったと思いますが、皆さんと一緒にイベントの運営ができてとても良かったです。ありがとうございました。
また機会があれば参加させて頂きたいです。
貴重な経験をありがとうございました。また何かありましたからお役に立てられたらと思います。

考察

- ・会場、開催時間、体験者の反応、自由記述などから、改善点があるものの 回答者の満足度は高かったことがうかがえる。
- ・事前準備について、情報の整理・共有、会場準備にともなう情報共有、各ブースの役割の事前共有など情報関係に関する改善点が多く挙げられていた。この点に関しては、今回初めての試みでもあったことから、今後必要事項を整理・集約して、実施マニュアルのようなものを準備することで改善されていくと考えられる。
- ・備品・物品についても同様に事前に十分な確認が求められていた。・また、除雪対応についての意見も出されていた。体験への影響を踏まえて、積雪時にどの程度まで対応を必要とするかも検討する必要がある。
- ・体験時に説明を行うものの、看板等で待ち時間にも確認できるような準備に関する意見も挙げられていた。
- ・当日に関しては、寒さ対策に関する点が挙げられていた。天候に左右されるため、最悪の場合等を想定した準備が元もめられていた。
- ・人員配置については、当日の急なキャンセルなどもあるため、余裕を持った確保が求められていた。また、厳寒期の場合は休憩の頻度も多く設定する必要性も挙げられていた。
- ・体験や会場の案内を行う際に、わかりやすくできる工夫があるとさらによい。

4)ヒヤリハット事例

- ・ピクルスストーンを戻す際に、参加者にぶつかってしまった(札幌)。
- ・シットスキーでゴール前にスタッフがおらず、そのままスキーが家族にぶつかってしまった(札幌)。
- ・リンクで転んで膝を打ってしまった(旭川)。

5)冬季間における実施に際してのポイントと留意点

○天候による影響への配慮

- ・降雪時は用具が濡れてしまうこともあるため、対策が必要である(座面カバーの設置、タオルの準備など)。(参加者はスキーウェアなど準備しないことを想定)

○雪上における体験

- ・スキーウェアなどの準備がなくても体験が可能な設定や用具の準備の工夫

○寒さに対する対応

- ・天候によっては寒さが厳しくなるため、暖房室などの設置が望ましい。
- ・風雪が強まった際に退避できる場所、スタッフの控室などの準備もあると良い。
- ・気温によって飲料なども凍らないような工夫が必要。

○講義体験

- ・降雪時に線や仕切りが埋もれてわからなくなるため、わかりやすいものを設置(コーンなど高さを出す、ラインは紐をペグで止めるなど消えにくい工夫)

○安全管理

- ・雪上や氷上など、足元が不安定となるため、転倒の予防、転倒したときの対策(ヘルメットや膝当てなど)、怪我等があったときの対応(救護体制)を整えておく
- ・寒さによる体調不良があった場合に休憩できる温かい場所を確保しておく

○会場

- ・トイレ等の状況についても確認必要(特に車いすユーザーなどが利用できる場所)
- ・移動に関する配慮(車いすが埋まらないような配慮)
- ・雪中使用でも物品の貸し出しが可能な業者等の情報把握(会場準備にも)

○人員配置

- ・寒さが強い場合は、休憩などをこまめにとる場合もあるため、余裕のある人員配置が望ましい。
- ・用具の利用や安全管理の方法について事前に共有する(スキーなど取り扱いに留意が必要なものがある)。

6)イベントの運営に関するポイントと留意点

- ・来場者を増やす工夫(呼び込みやわかりやすい表示)
- ・多様な機関との連携をどのように進めるか(実行委員などにおいて、スポーツ、福祉、教育、行政、就労、医療、など多様な領域から組成)、それぞれの強みをいかした準備を進めていく。
- ・それぞれの開催地域にある社会資源をアセスメントし、連携を進めていく。
- ・障がいの有無や年齢が関係なく楽しめる体験種目を用意する。
- ・多くの人がアクセスしやすい場所での開催を検討する(開催場所によって来場者の特徴も違うため、対応に留意する)
- ・運営スタッフとのスムーズな情報共有の実施。
- ・体験者が継続的にパラスポーツ関わっていくためのつながりづくり。

VI. 今後の事業展開予定

1, 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめ、周知することにより最終的には全道への普及・展開を目指した。

今回整理されたポイントを踏まえ、実施マニュアル(基本マニュアル)の作成を制作することで、様々な降雪地域でも留意点等を踏まえながら不安を軽減したイベント開催ができるようにする。加えて、継続的に実施ノウハウを蓄積していくことで、より冬期間開催のハードルを下げていく取り組みを継続する。

横展開に向けたポイント

- ・開催地域に合わせた展開が可能となる開催方法のパッケージ化(ノウハウ蓄積とマニュアル作成)
→ パッケージの一部を取り出した小規模な活動など応用も可能とする。
- ・多様な機関との具体的な連携の内容事例の整理 → 実施のハードルを下げる取り組み
- ・参加者の社会資源化促進の在り方 → 体験だけで終わらず、「支援者」としての活躍につながる仕組みづくり。
- ・イベントとして終わらせるのではなく、取り組みをきっかけとした障がいがある人も冬期間継続的に取り組める場づくり

課題

- ・必要経費の確保(広域である北海道において様々な地域で開催するにあたっての予算の検討)
- ・運営に携わる人材の確保と地域人材の育成(啓発)

2, 次年度以降の事業継続、横展開の計画

- ・イベントの開催地について、札幌のほか、今回実施した旭川以外の地域での開催を検討する。
- ・冬期間の積雪が少ない地域(道東など)における開催種目についての検討・拡大
- ・今年度の取り組みを踏まえ、実施マニュアルの作成を進め、具体化する
- ・実行委員会の組成についても一定程度の蓄積ができたため、早期からの取り組みが可能であるとする。準備期間を十分に確保した事業展開を行う。

参考資料等

内閣府(2023)令和5年版障害者白書

(<https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/index-pdf.html>)

北海道(2024)「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」(素案)

(https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/9/4/8/0/2/0/2/_/Draft.pdf)

株式会社リベルタス・コンサルティング(2023)『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害児・者のスポーツライフに関する調査研究)』報告書令和5年3月

(https://www.mext.go.jp/sports/content/20230322-spt_kensport01-000013088.pdf)